

**旭川市**  
**介護予防・日常生活圏域二一ズ調査**  
**結果報告書**

令和6年3月  
旭川市



# 目次

第1編 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査対象及び調査方法.....	1
3 留意事項.....	1
第2編 調査結果.....	2
問1 あなたのご家族や生活状況について.....	4
問2 からだを動かすことについて.....	7
問3 食べることについて.....	16
問4 毎日の生活について.....	20
問5 地域での活動について.....	24
問6 たすけあいについて.....	26
問7 健康について.....	28
問8 地域包括支援センターについて.....	32
問9 在宅医療について.....	36
問10 将来の不安について.....	37
問11 最期を迎える場所について.....	38
問12 ボランティア活動について.....	39
問13 認知症について.....	42
問14 認知症にかかる相談窓口の把握について.....	45
問15 スマートフォンの利用について.....	46
第3編 まとめと考察.....	48

# 第1編 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、第9期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(令和6年度～令和8年度)を策定するにあたり、高齢者の心身の状態や自立した生活をおくる上での課題、今後の意向等をよりの確に把握することを目的として実施しました。

## 2 調査対象及び調査方法

アンケート調査票は、以下の市民を対象に郵送にて実施しました。

調査時期	令和5年2月
対象者	要介護1～5の認定を受けていない65歳以上の高齢者 (一般高齢者と要支援1, 2認定者)
発送数	4,382票
有効回収数	2,516票
有効回収率	57.4%

## 3 留意事項

- ①設問には1つのみ答える単数回答(SA:シングルアンサー)と、複数回答(MA:マルチアンサー)があります。MAの集計においては、回答者がその選択肢を選択した割合を算出しています。
- ②図表中のn(number of cases)は、回答者数を表します。図表中の割合は、選択肢ごとに小数第二位で四捨五入しているため、その割合の合計と一致しない場合があります。
- ③設問のなかには前問に答えた人のみが回答する「限定設問」があり、その設問においては表中の回答者数が全体より少なくなっています。
- ④その他意見については、代表的なものをまとめています。
- ⑤経年比較で引用している前回調査とは、令和元年度に実施した「旭川市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を指します。
- ⑥図表中において複数回答における無回答を省略している箇所があります。
- ⑦第8期計画策定時からの経年変化を見るため、次の前回調査結果と比較します。

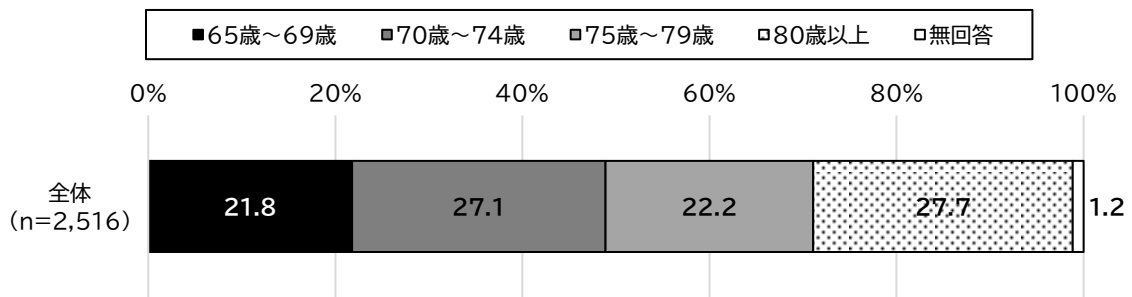
### ■前回調査の概要

調査時期	令和2年2～4月
発送数	4,400票(対象者は今回調査と同様)
有効回収数	2,762票
有効回収率	62.8%

## 第2編 調査結果

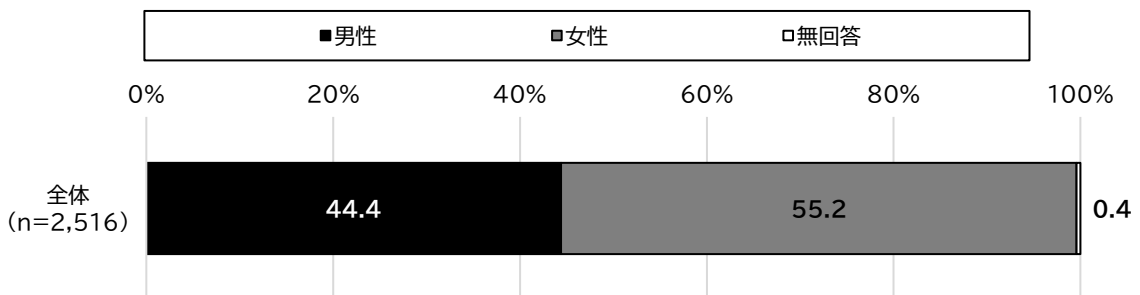
### 年 齢

	人数(人)	割合(%)
65-74 歳	1,229	48.8
75-84 歳	947	37.6
85 歳以上	311	12.4
無回答	29	1.2
合計	2,516	100.0



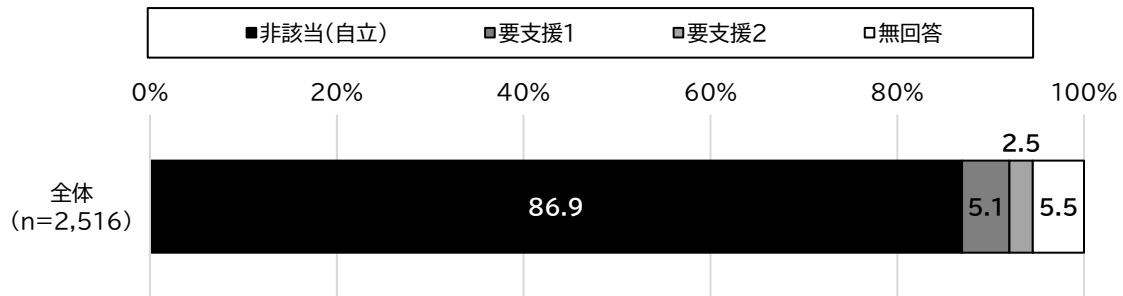
### 性 別

	人数(人)	割合(%)
男性	1,117	44.4
女性	1,389	55.2
無回答	10	0.4
合計	2,516	100.0



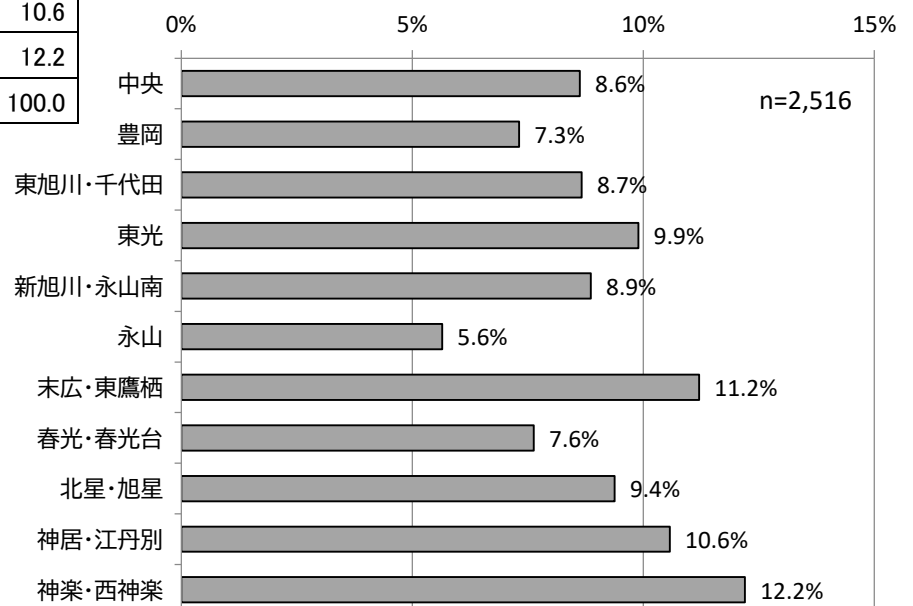
## 要介護度

	人数(人)	割合(%)
非該当(自立)	2,187	86.9
要支援1	128	5.1
要支援2	63	2.5
無回答	138	5.5
合計	2,516	100.0



## 地 区

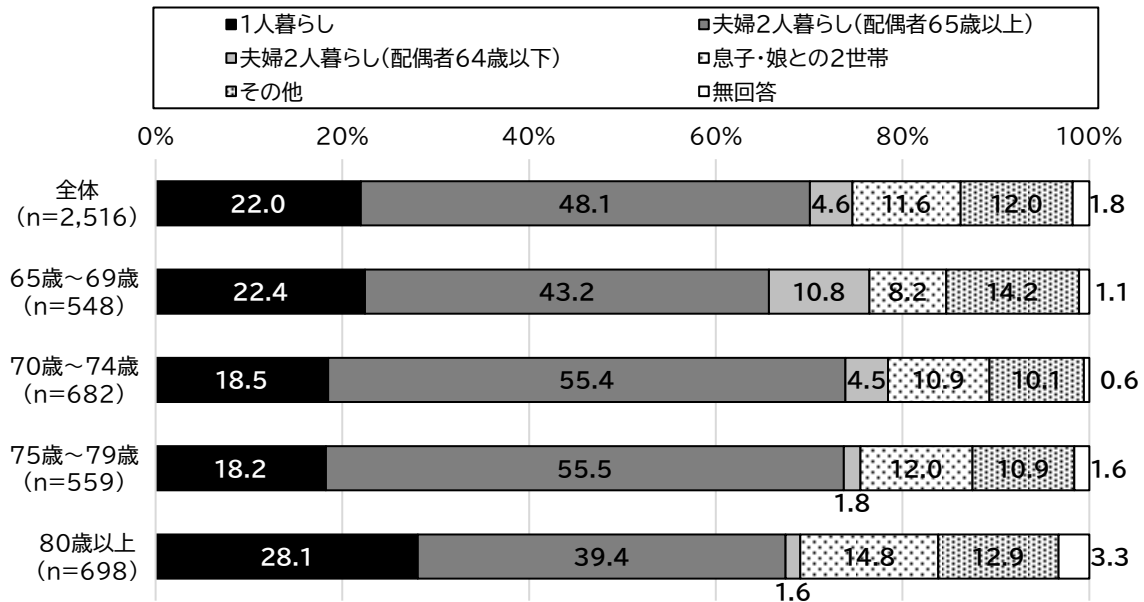
	人数(人)	割合(%)
中央	217	8.6
豊岡	184	7.3
東旭川・千代田	218	8.7
東光	249	9.9
新旭川・永山南	223	8.9
永山	142	5.6
末広・東鷹栖	282	11.2
春光・春光台	192	7.6
北星・旭星	236	9.4
神居・江丹別	266	10.6
神楽・西神楽	307	12.2
合計	2,516	100.0



## 問1 あなたのご家族や生活状況について

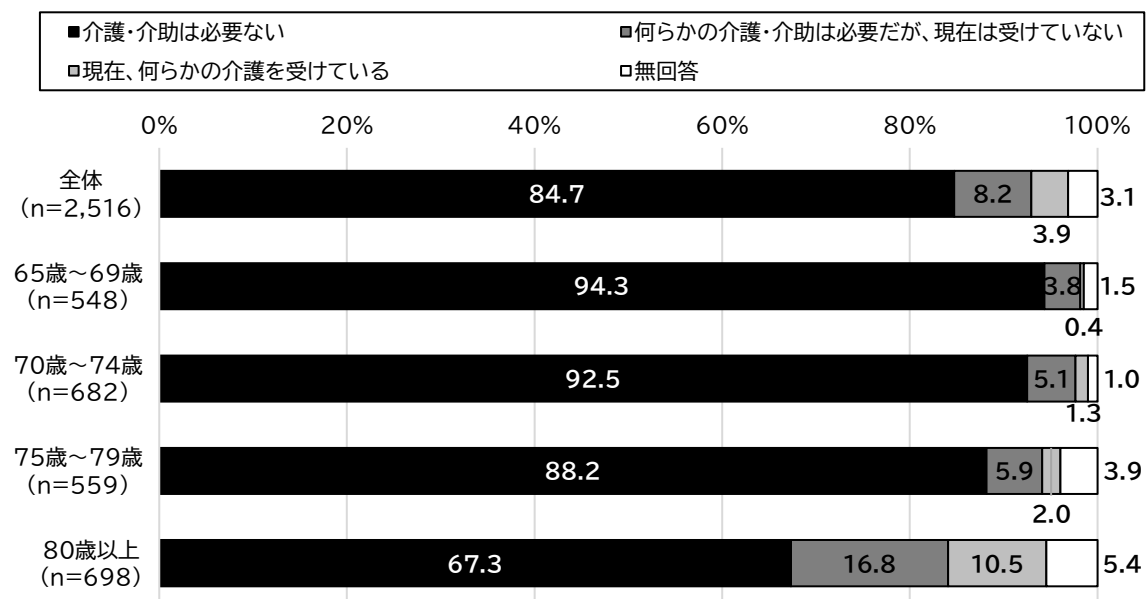
### (1) 家族構成をお教えてください (SA)

家族構成については、全体では「1人暮らし」の割合が22.0%となっています。年齢別にみると、80歳以上になると「1人暮らし」の割合が増加しており、28.1%となっています。



### (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (SA)

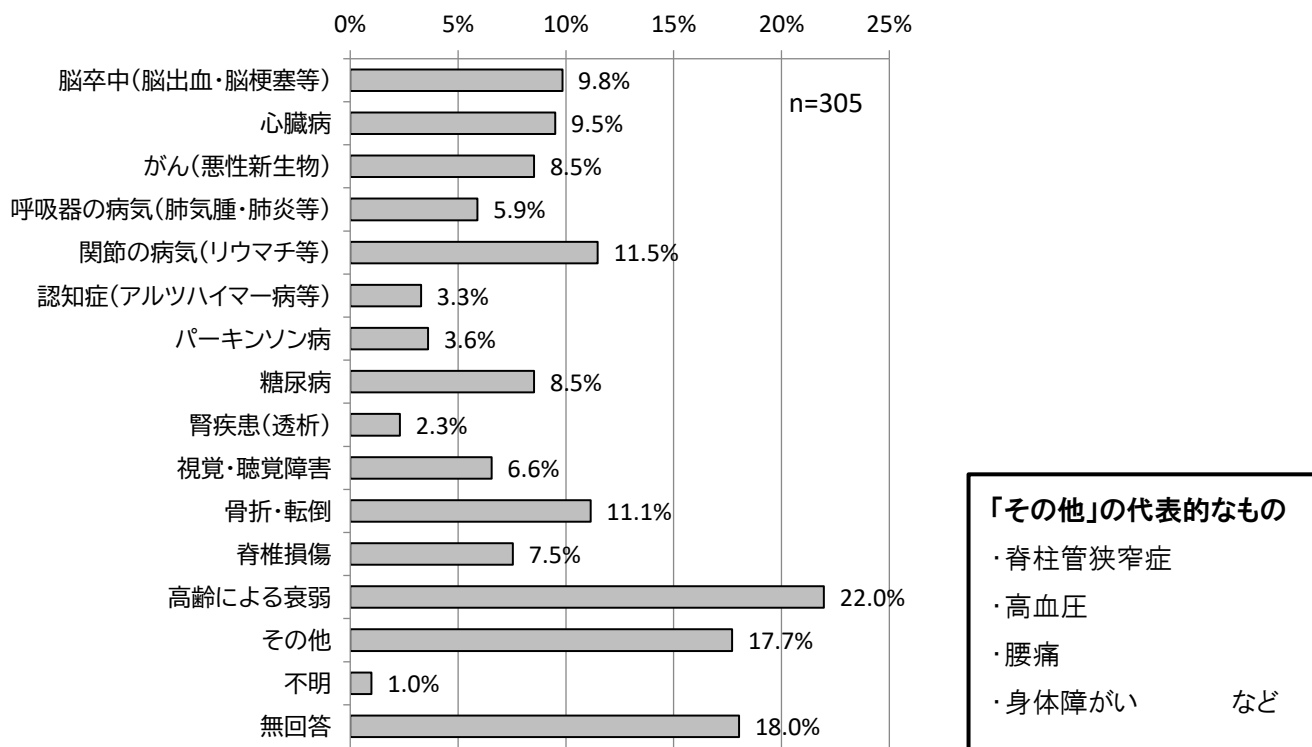
本アンケートは要介護1~5の方は対象ではないこともあり、「介護・介助は必要ない」と回答した方が多くを占めており、全体の84.7%となっています。年齢別にみると、高齢になるにつれ「介護・介助は必要ない」の割合が減少しており、80歳以上においては67.3%となっています。



【(2) において「介護・介助は必要ない」以外の方のみ対象】

① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (MA)

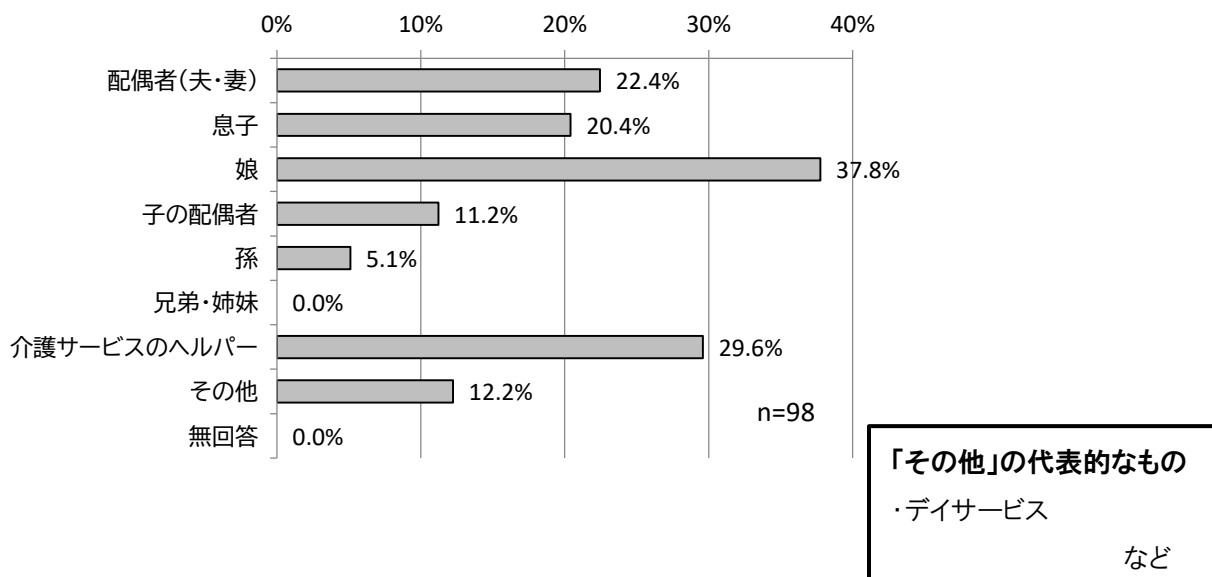
「高齢による衰弱」を原因と回答した方の割合が22.0%と最も高く、次いで「その他」と回答した方の割合が17.7%と高くなっています。



【(2) において「現在、何らかの介護を受けている」方のみ対象】

② 主にどなたの介護・介助を受けていますか (MA)

何らかの介護を受けている方の中では、「娘」の介護・介助を受けていると回答した方の割合が37.8%と最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」の割合が29.6%と高くなっています。

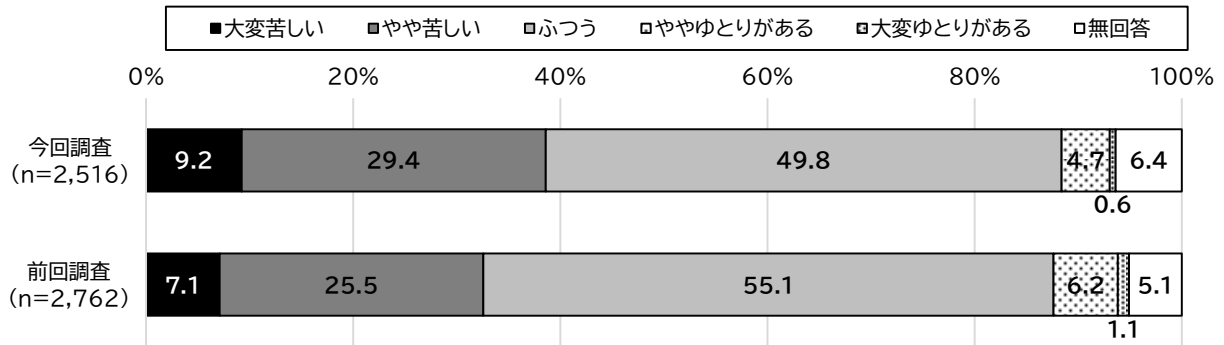




### (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (SA)

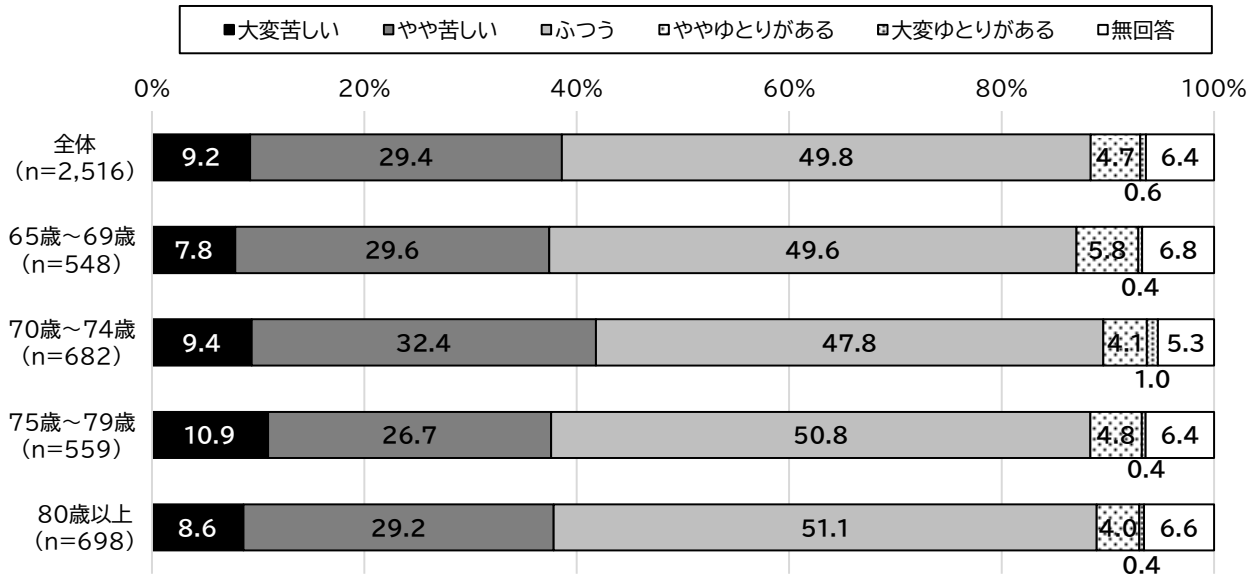
#### 【経年比較】

経済状況が苦しいと回答した方(「大変苦しい」と「やや苦しい」)は、全体では38.6%となっています。前回調査との比較では、経済状況が苦しいと回答した方の割合が増加しています。物価高騰等の経済状況の変化が、高齢者の生活の負担になっていることがうかがえます。



#### 【年齢別】

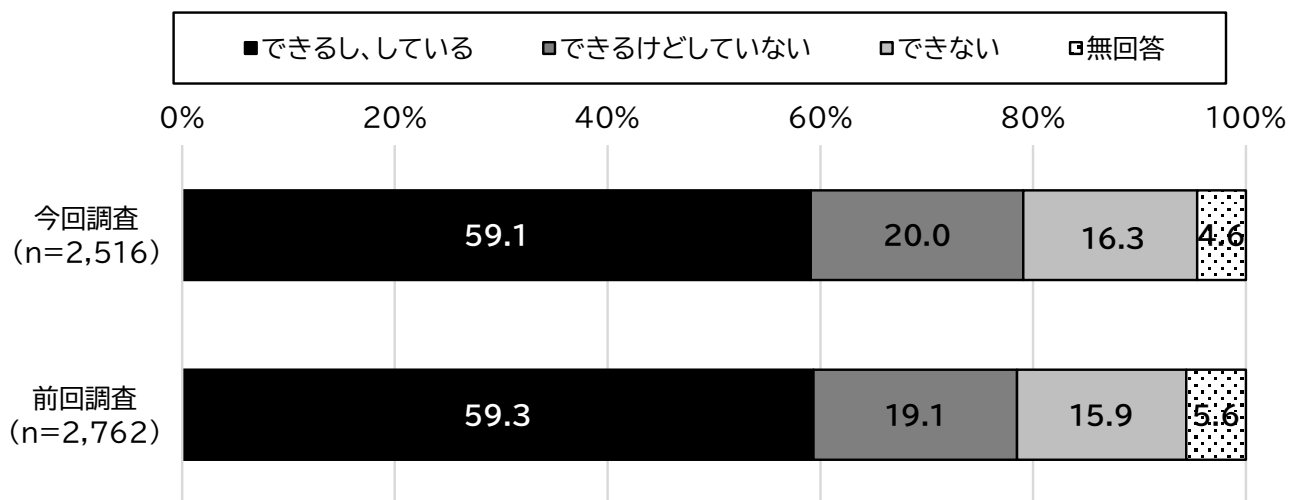
年齢別にみると、70～74歳が他の年齢層よりわずかに経済状況が苦しいと回答した方の割合が高くなっていますが、全体としては大きな傾向の差はみられません。



## 問2 からだを動かすことについて

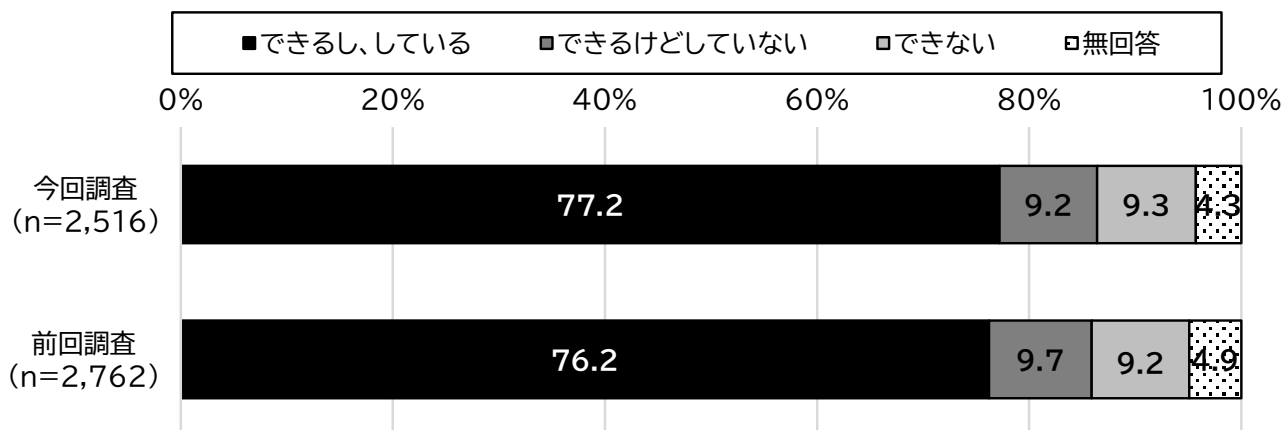
### (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (SA)

「できるし、している」と回答した方が全体では59.1%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



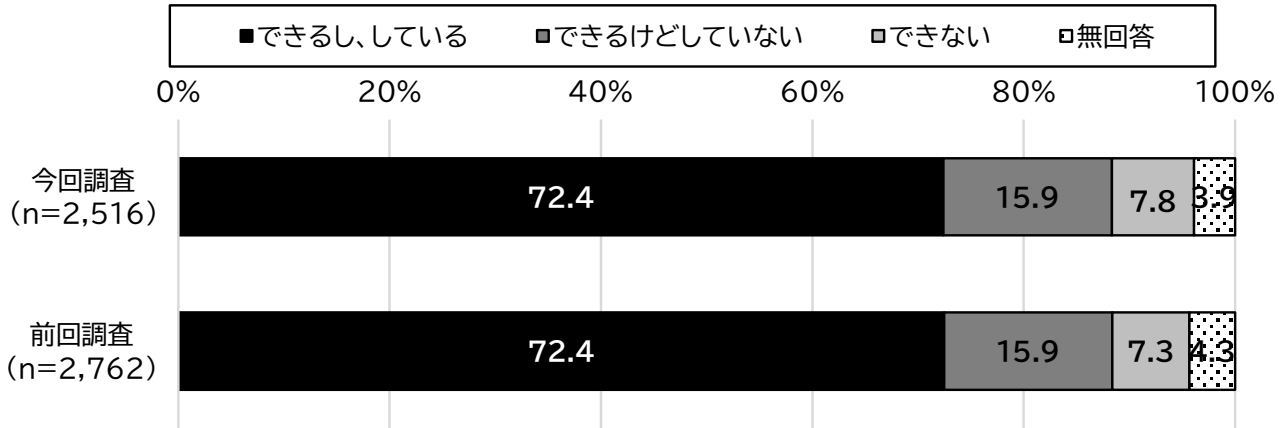
### (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (SA)

「できるし、している」と回答した方が全体では77.2%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



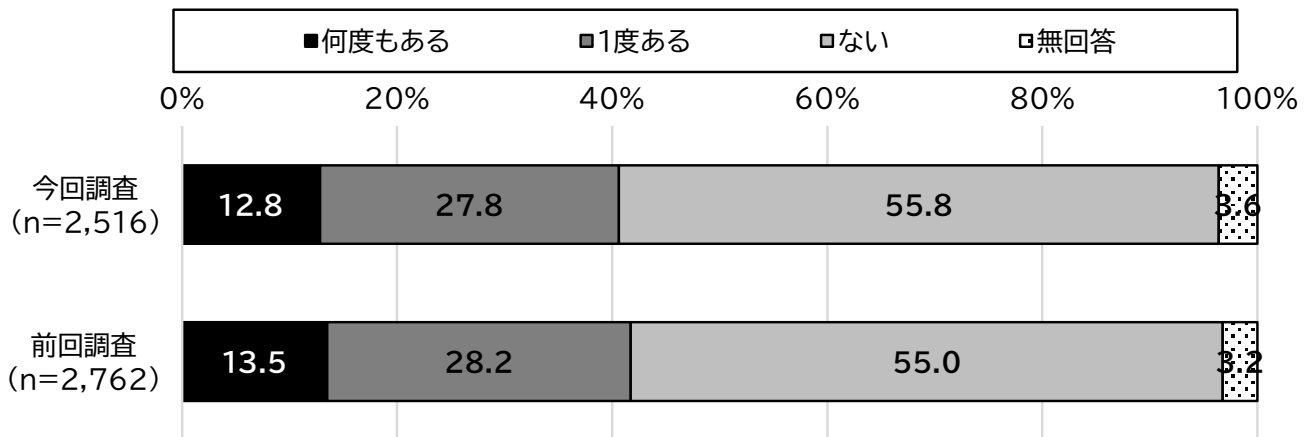
### (3) 15分位続けて歩いていますか (SA)

「できるし、している」と回答した方が全体では72.4%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



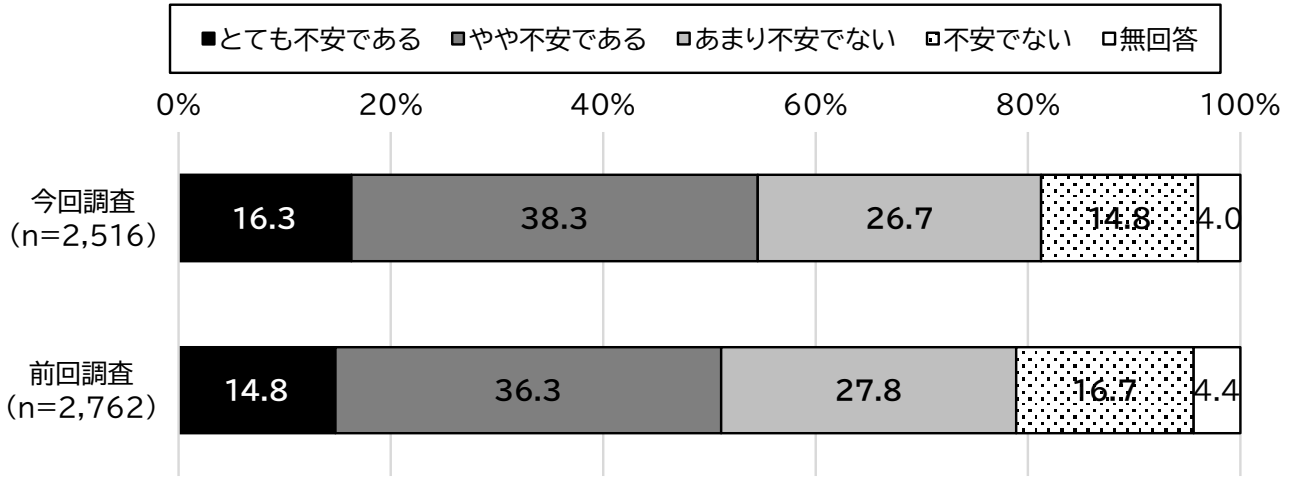
### (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (SA)

「ない」と回答した方が全体では55.8%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



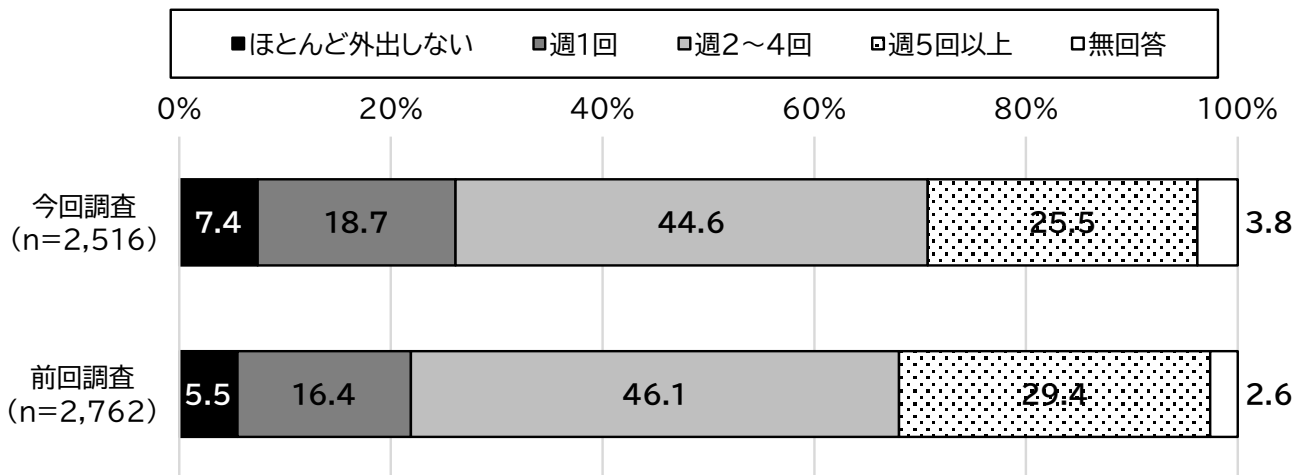
(5) 転倒に対する不安は大きいですか (S A)

不安があると回答した方(「とても不安である」と「やや不安である」)は、全体では 54.6%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



(6) 週に1回以上は外出していますか (S A)

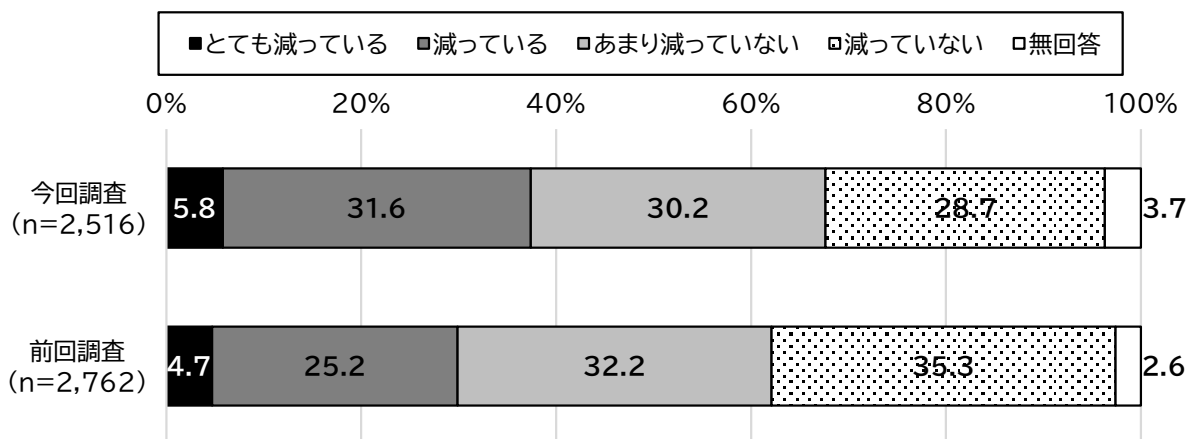
「ほとんど外出しない」と回答した方が、全体では 7.4%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



### (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (S A)

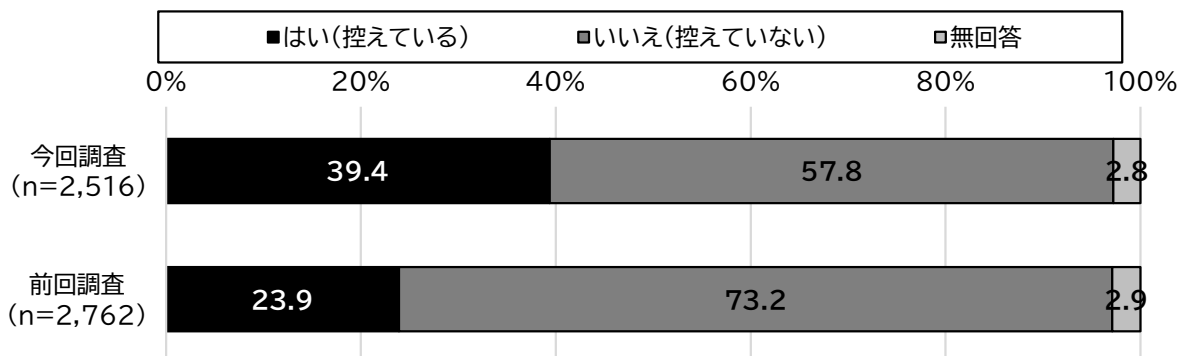
減っていると回答した方(「とても減っている」と「減っている」)は、全体では37.4%となっています。前回調査との比較では、減っていると回答した方の割合はわずかに増加しています。

※「昨年と比べて」の設問であることから、前回調査は新型コロナウイルス感染症拡大以前の外出頻度を回答しています。新型コロナウイルス感染症拡大中とその後という比較ではないため、この結果から新型コロナウイルス感染症の外出への影響は、必ずしも読み取れません。



### (8) 外出を控えていますか (S A)

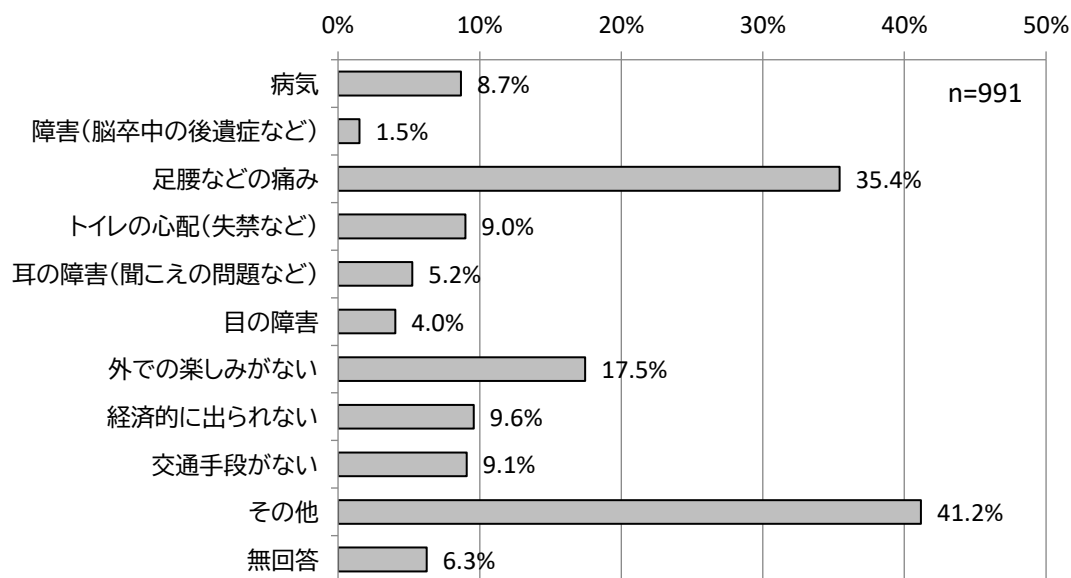
控えていると回答した方は、全体では39.4%となっています。前回調査との比較では、控えていると回答した方の割合は増加しています。増加幅が大きく、高齢化だけでなく、新型コロナウイルス感染症の影響があるものと考えられます。



【(8)で「はい」(外出を控えている)の方のみ対象】

① 外出を控えている理由は、次のどれですか (MA)

「その他」を原因と回答した方の割合が41.2%と最も高く、次いで「足腰などの痛み」と回答した方の割合が35.4%と高くなっています。「その他」についての記述回答では、新型コロナウイルス感染症を原因とする方がほとんどを占めていました。

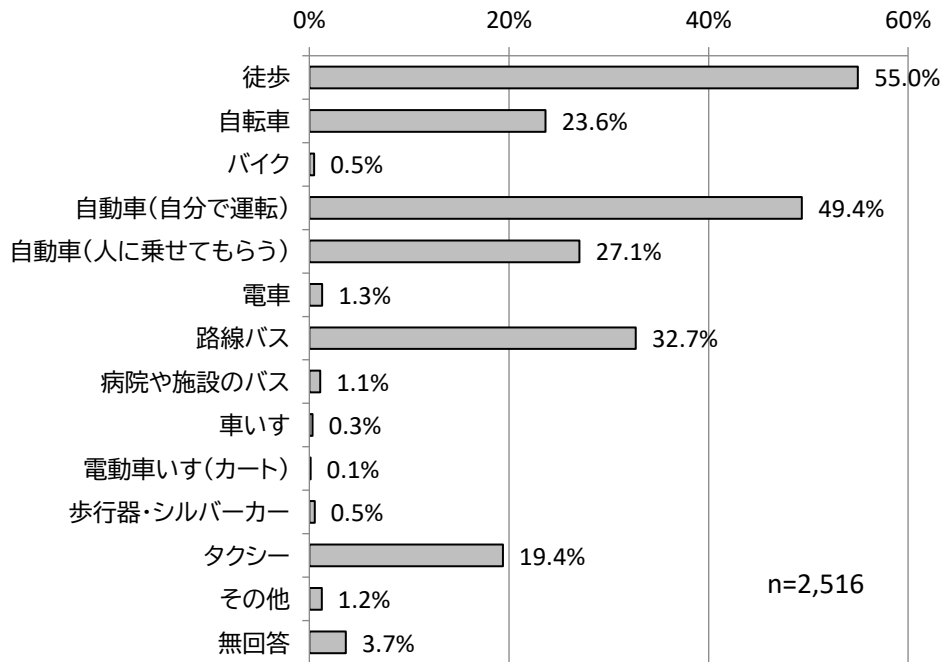


「その他」の代表的なもの

・コロナのため(※多数)      ・雪道のため      ・冬なので      など

(9) 外出する際の移動手段は何ですか (MA)

「徒歩」と回答した方の割合が55.0%と最も高く、次いで「自動車(自分で運転)」, 「路線バス」と回答した方の割合が高くなっています。



「その他」の代表的なもの

- ・杖
- ・子供や友人の送迎 など

## 【年齢別】

年齢別にみると、高齢になるにつれ「自動車(自分で運転)」と回答した方の割合が減少しています。一方で、「自動車(人に乗せてもらう)」、「路線バス」、「タクシー」と回答した方の割合は、高齢になるにつれ増加しています。

	人数	割合(%)						
		徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で 運転)	自動車 (人に乗せ てもらう)	電車	路線バス
全体	2,516	55.0	23.6	0.5	49.4	27.1	1.3	32.7
65歳～69歳	548	53.8	24.8	0.7	72.3	20.3	1.8	23.7
70歳～74歳	682	57.2	24.9	1.0	57.8	25.8	1.5	32.4
75歳～79歳	559	58.5	27.4	0.2	46.7	29.7	1.8	36.1
80歳以上	698	51.7	18.9	0.0	25.9	30.8	0.3	37.8

	人数	割合(%)						
		病院や施 設のバス	車いす	電動車い す(カート)	歩行器・ シルバー カー	タクシー	その他	無回答
全体	2,516	1.1	0.3	0.1	0.5	19.4	1.2	3.7
65歳～69歳	548	0.0	0.4	0.0	0.2	9.9	0.7	2.9
70歳～74歳	682	0.6	0.1	0.0	0.0	14.5	0.6	3.1
75歳～79歳	559	0.5	0.0	0.2	0.5	19.1	0.9	3.2
80歳以上	698	2.9	0.7	0.1	1.3	31.7	2.4	4.7



## 【地区別】

地区別にみると、中央地区において「徒歩」の割合が特に高くなっており、「自動車(自分で運転)」が低くなっています。徒歩で移動できる範囲に、買い物や通院のできる環境があることがうかがえます。

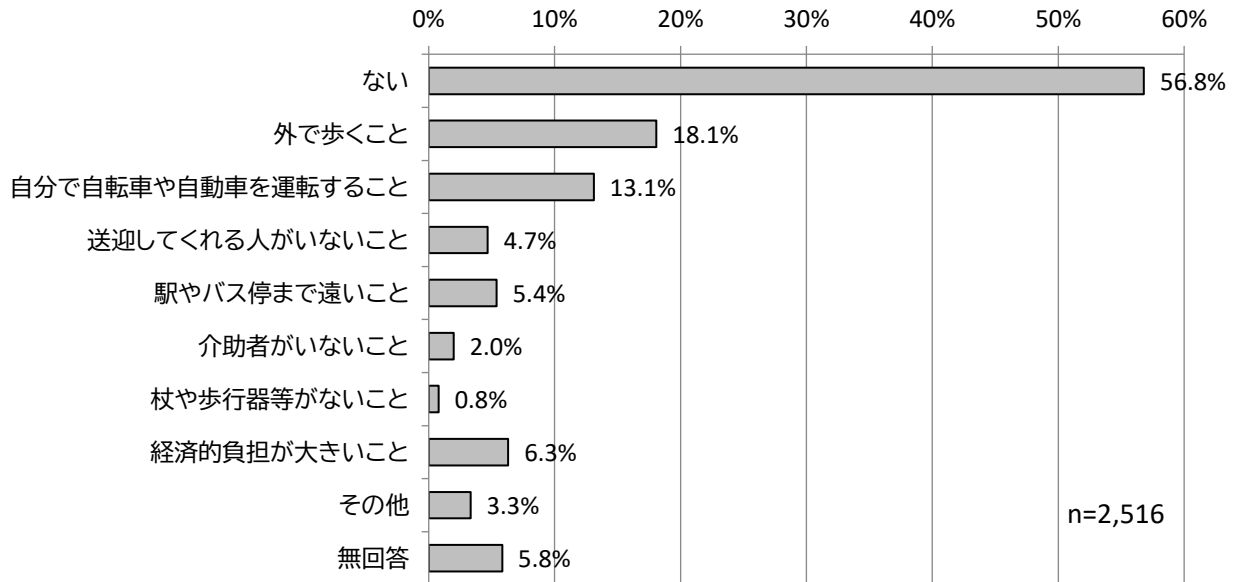
また東旭川・千代田地区において「徒歩」、「路線バス」、「タクシー」の割合が低く、「自動車(自分で運転)」が高くなっています。農地の多い広大な地区であるため、自動車依存度が高いことがうかがえます。

	人数	割合(%)						
		徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で 運転)	自動車 (人に乗せ てもら)	電車	路線バス
全体	2,516	55.0	23.6	0.5	49.4	27.1	1.3	32.7
中央	217	67.3	27.2	0.0	38.2	22.6	1.4	32.7
豊岡	184	54.9	21.2	0.5	47.3	27.2	0.0	33.7
東旭川・千代田	218	42.7	17.4	0.9	57.3	23.4	0.0	21.1
東光	249	58.2	24.5	0.0	45.0	28.1	0.0	32.5
新旭川・永山南	223	56.1	22.0	0.0	50.2	25.6	2.2	32.7
永山	142	52.1	28.2	0.0	52.8	32.4	2.1	26.8
末広・東鷹栖	282	56.0	28.7	0.4	54.6	26.6	0.4	34.8
春光・春光台	192	53.1	20.8	1.0	53.6	28.6	1.6	41.7
北星・旭星	236	53.0	25.4	1.3	43.6	24.6	0.8	35.2
神居・江丹別	266	52.3	20.3	0.0	45.9	33.1	0.0	35.3
神楽・西神楽	307	57.0	24.1	1.0	54.1	26.7	4.9	31.6

	人数	割合(%)						
		病院や施 設のバス	車いす	電動車い す(カート)	歩行器・ シルバー カー	タクシー	その他	無回答
全体	2,516	1.1	0.3	0.1	0.5	19.4	1.2	3.7
中央	217	1.8	0.9	0.0	0.0	27.2	1.8	0.0
豊岡	184	0.5	0.5	0.0	0.5	19.6	1.6	0.0
東旭川・千代田	218	1.8	0.0	0.0	0.5	13.3	0.9	0.0
東光	249	1.2	0.4	0.8	0.0	21.3	0.8	0.0
新旭川・永山南	223	0.0	0.9	0.0	0.4	24.7	1.3	0.0
永山	142	2.1	0.0	0.0	0.7	10.6	2.1	0.0
末広・東鷹栖	282	1.1	0.0	0.0	0.4	11.7	1.1	0.0
春光・春光台	192	1.6	0.0	0.5	2.1	18.2	1.0	0.0
北星・旭星	236	0.0	0.0	0.0	0.4	26.3	1.3	0.0
神居・江丹別	266	0.8	0.4	0.0	0.8	20.3	2.3	0.0
神楽・西神楽	307	1.3	0.3	0.0	0.3	18.6	0.0	0.0

(10) 外出する際の移動に関して不安に思うことはありますか (MA)

「ない」と回答した方の割合が 56.8%と最も高く、次いで「外で歩くこと」、「自分で自転車や自動車を運転すること」の順に回答した方の割合が高くなっています。



「その他」の代表的なもの

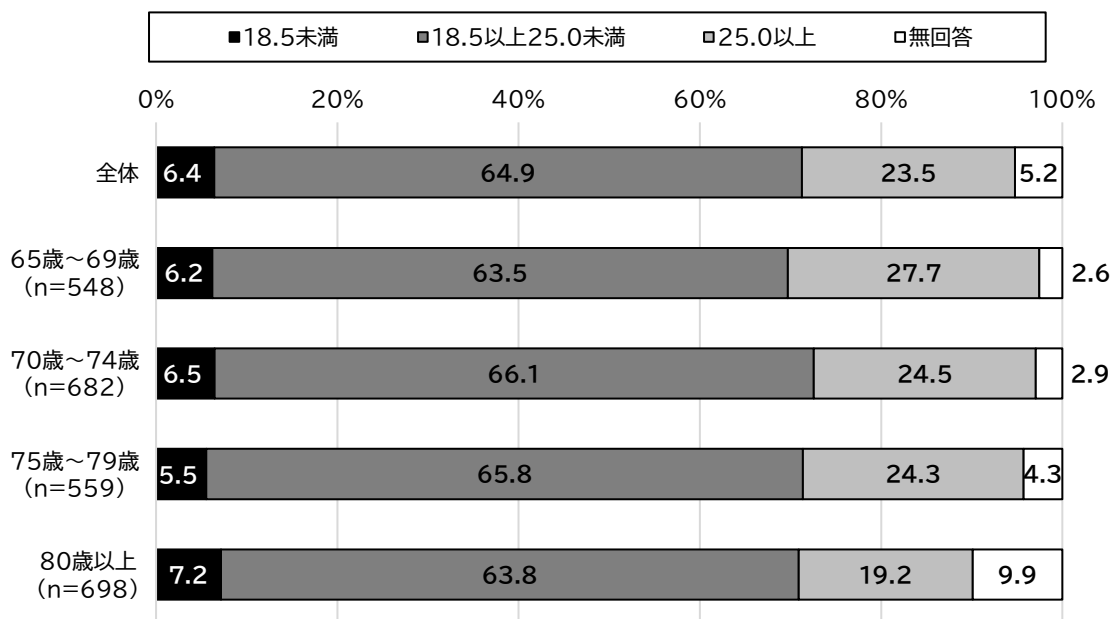
- ・バスの本数が少ない
- ・冬場の路面状況 など

### 問3 食べることについて

#### (1) 身長・体重

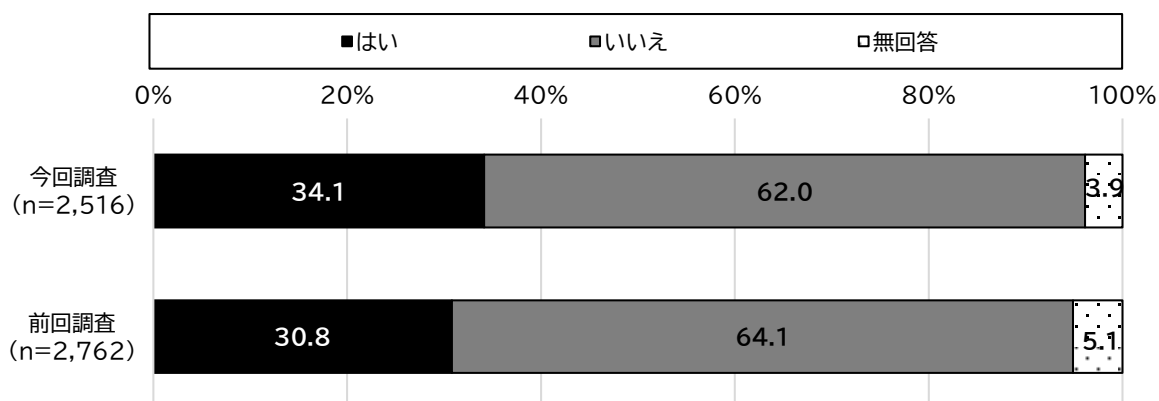
回答のあった身長・体重をもとに、BMIを算出したところ、以下の結果となりました。

普通体重の方が全体では64.9%となっていますが、18.5未満(低体重)の方が6.4%、25.0以上(肥満1度以上)の方が23.5%となっています。年齢別にみると、80歳以上において25.0以上の割合が低くなっていますが、無回答の割合も高くなっているため、低体重傾向とは言い切れません。



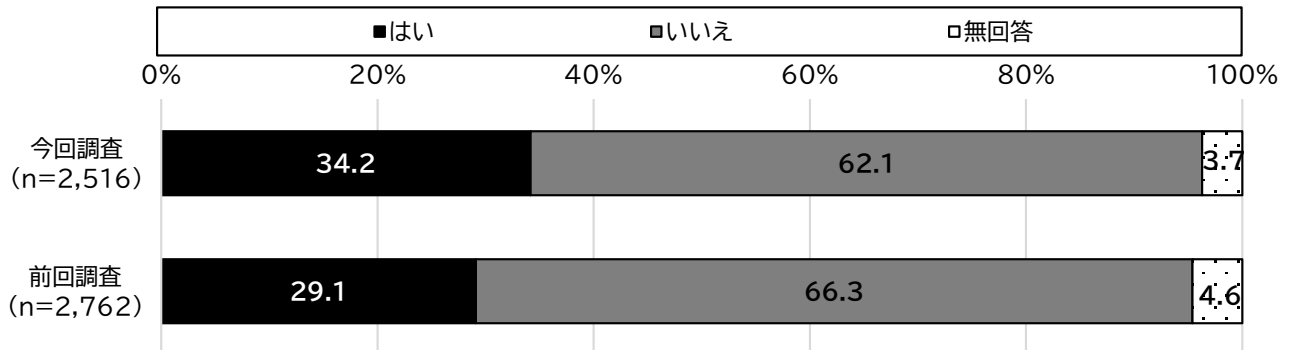
#### (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (SA)

食べにくくなったと回答した方が、全体では34.1%となっています。前回調査との比較では、食べにくくなったと回答した方の割合はわずかに増加しています。



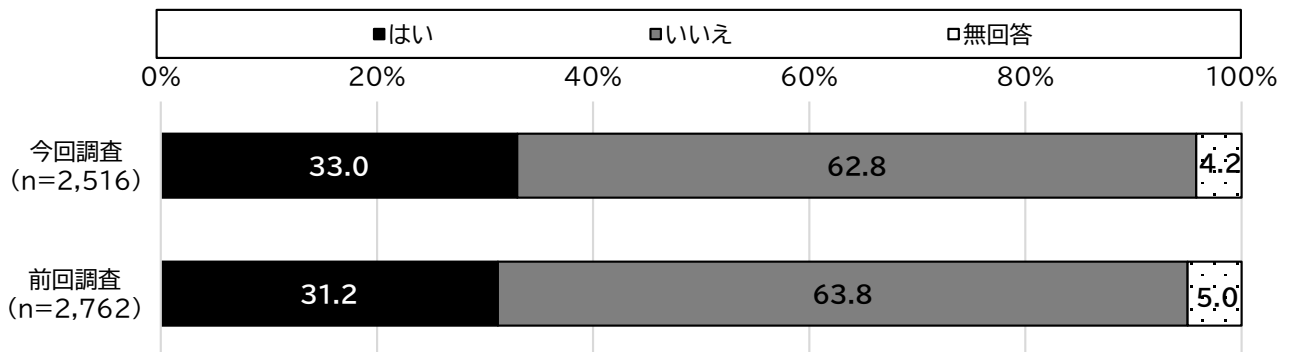
### (3) お茶や汁物等でむせることがありますか (SA)

むせることがあると回答した方が、全体では34.2%となっています。前回調査との比較では、むせることがあると回答した方の割合はわずかに増加しています。



### (4) 口の渇きが気になりますか (SA)

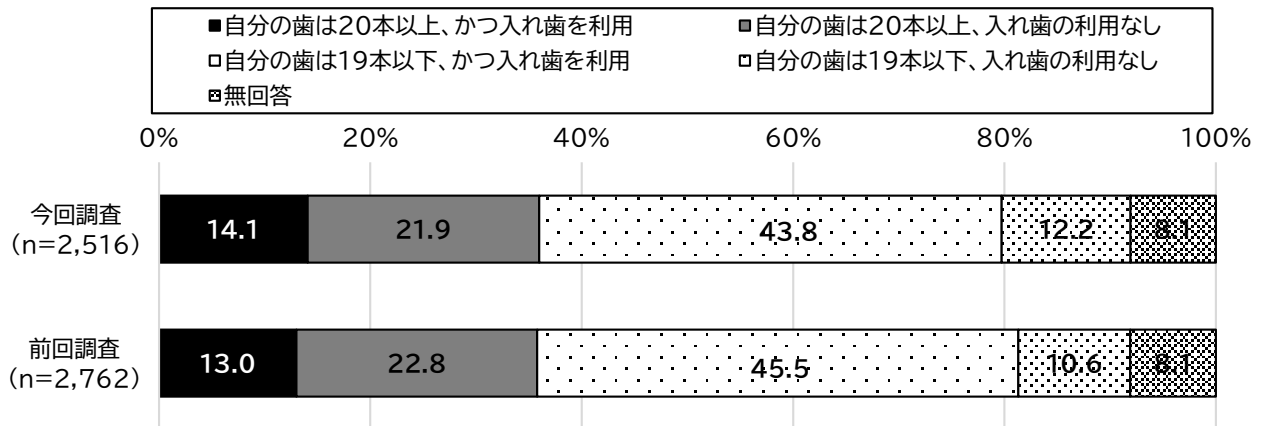
気になると回答した方が、全体では33.0%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



(5) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (SA)

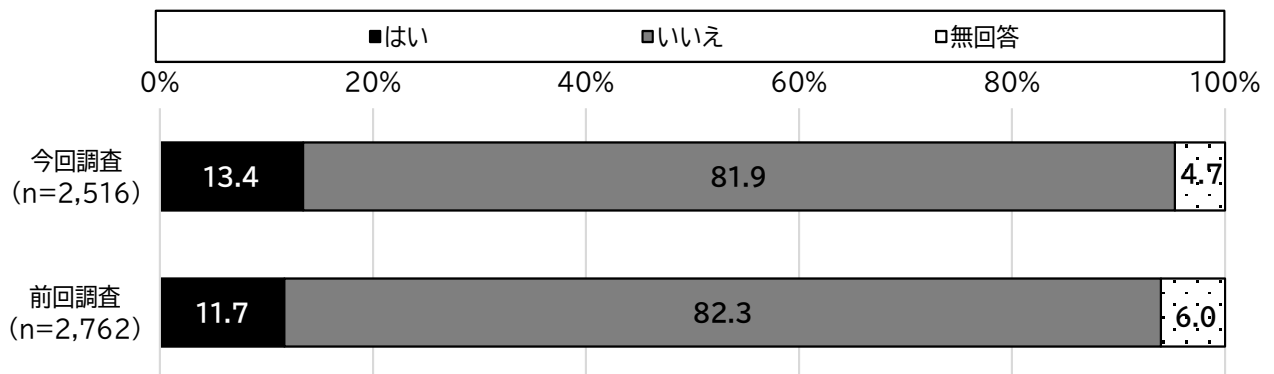
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です)

歯の数が 20 本以上と回答した方の合計は、全体では 36.0%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



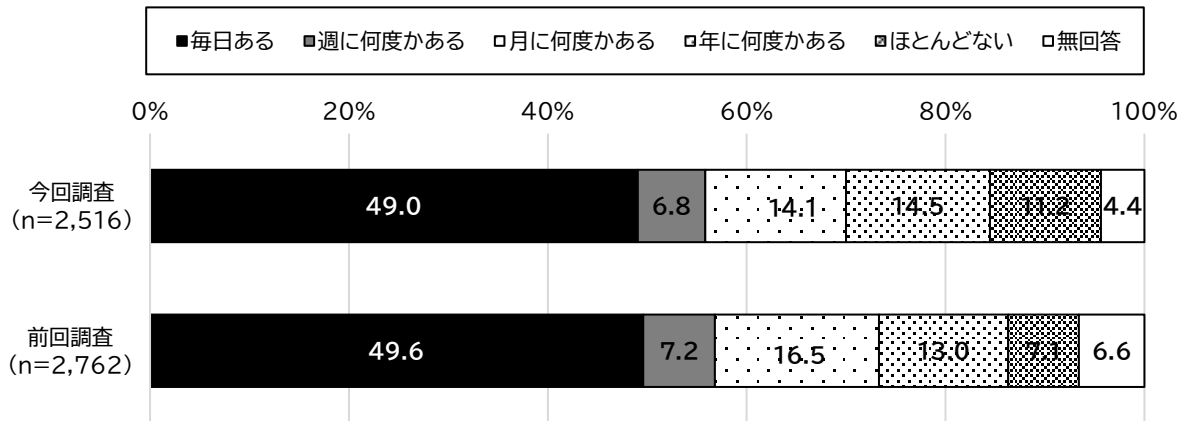
(6) 6 か月間で 2 ~ 3 kg 以上の体重減少がありましたか (SA)

体重減少があったと回答した方が、全体では 13.4%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



(7) どなたかと食事をとにもする機会がありますか (SA)

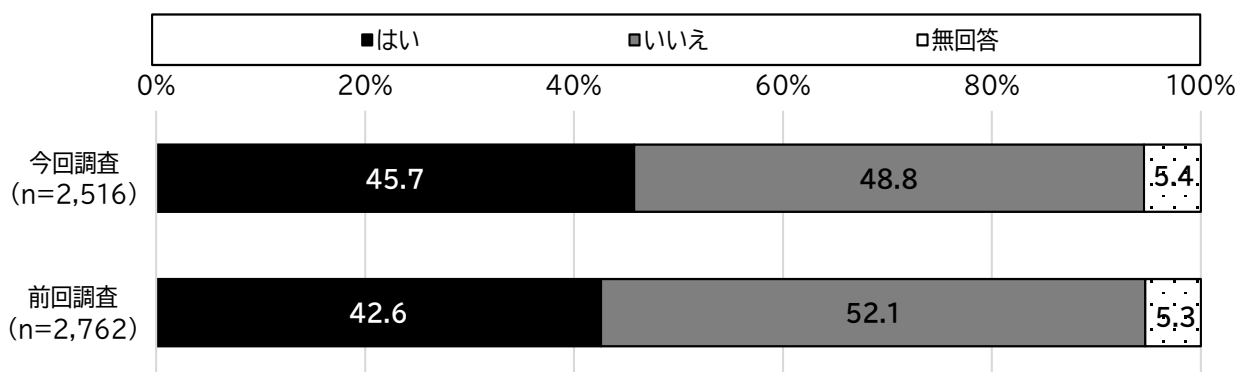
「毎日ある」と回答した方が、全体では49.0%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



## 問4 毎日の生活について

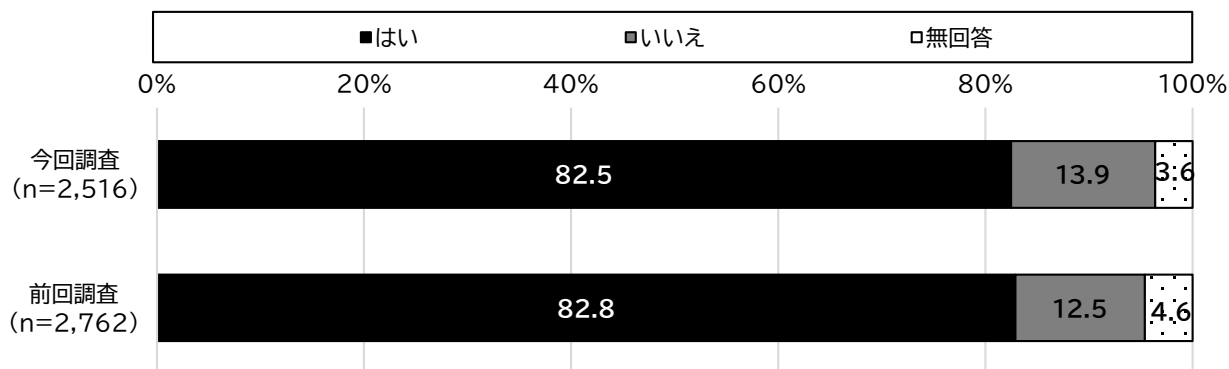
### (1) 物忘れが多いと感じますか (S A)

物忘れが多いと感じると回答した方が、全体では45.7%となっています。前回調査との比較では、物忘れが多いと感じると回答した方の割合はわずかに増加しています。



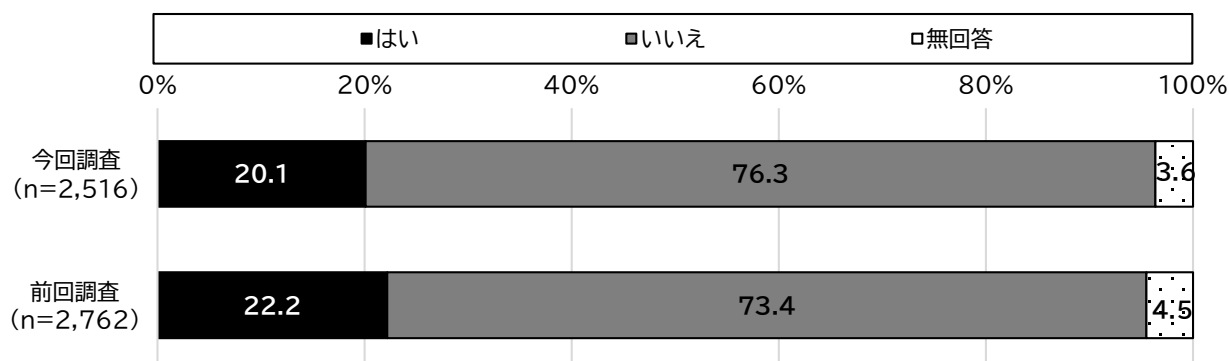
### (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか (S A)

電話をかけると回答した方が、全体では82.5%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



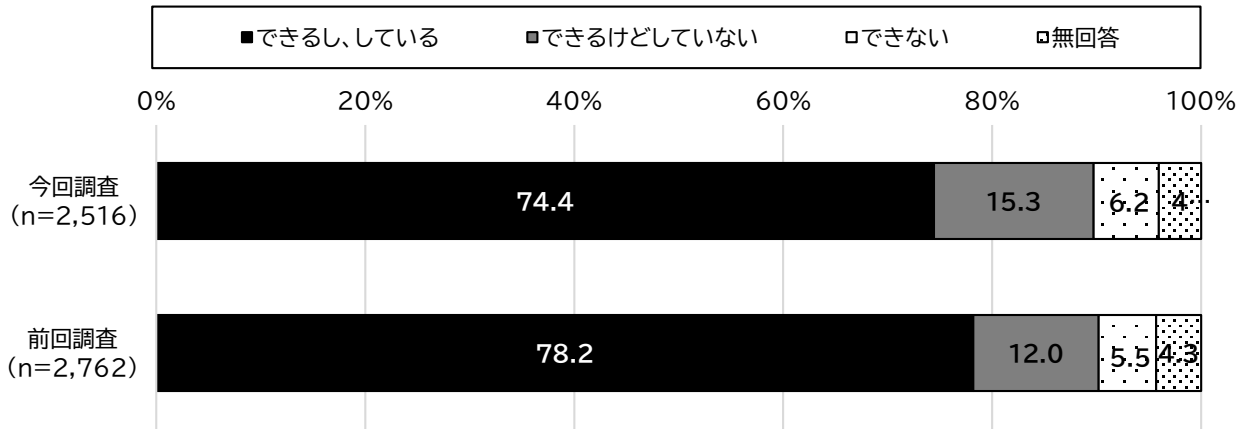
### (3) 今日が何月何日かわからない時がありますか (S A)

わからない時があると回答した方が、全体では20.1%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



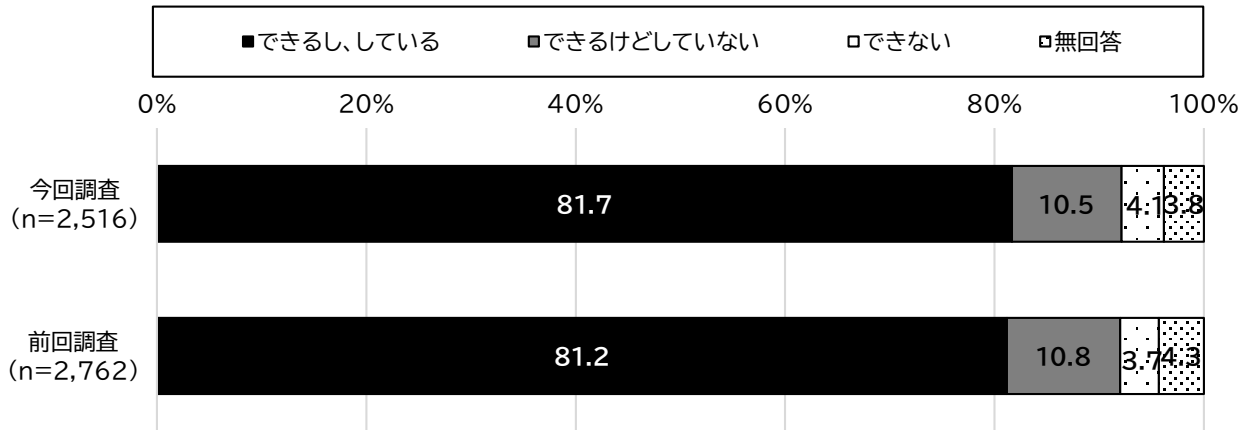
(4) バス等を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)(SA)

「できるし、している」と回答した方が、全体では74.4%となっています。前回調査との比較では、「できるし、している」と回答した方がわずかに減少しています。



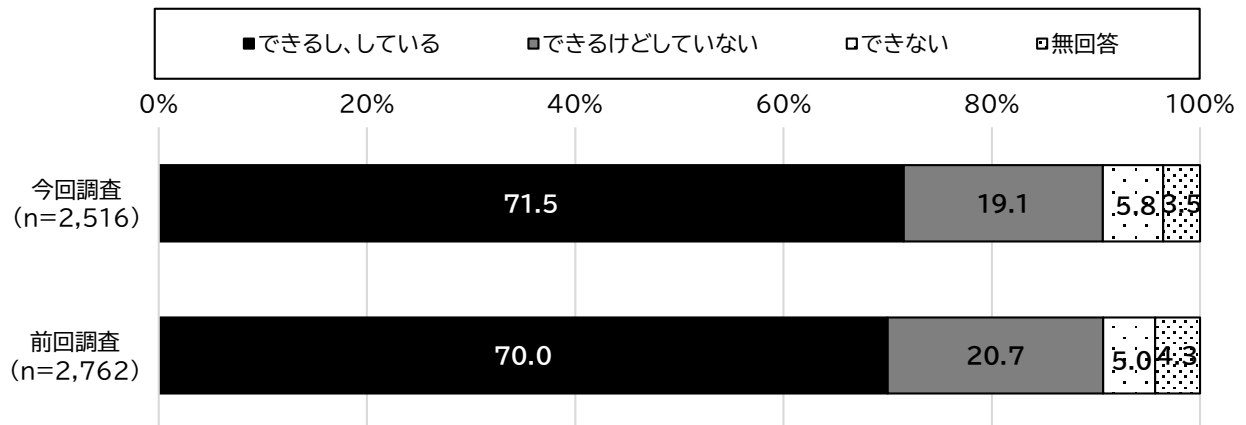
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか(SA)

「できるし、している」と回答した方が、全体では81.7%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



(6) 自分で食事の用意をしていますか(SA)

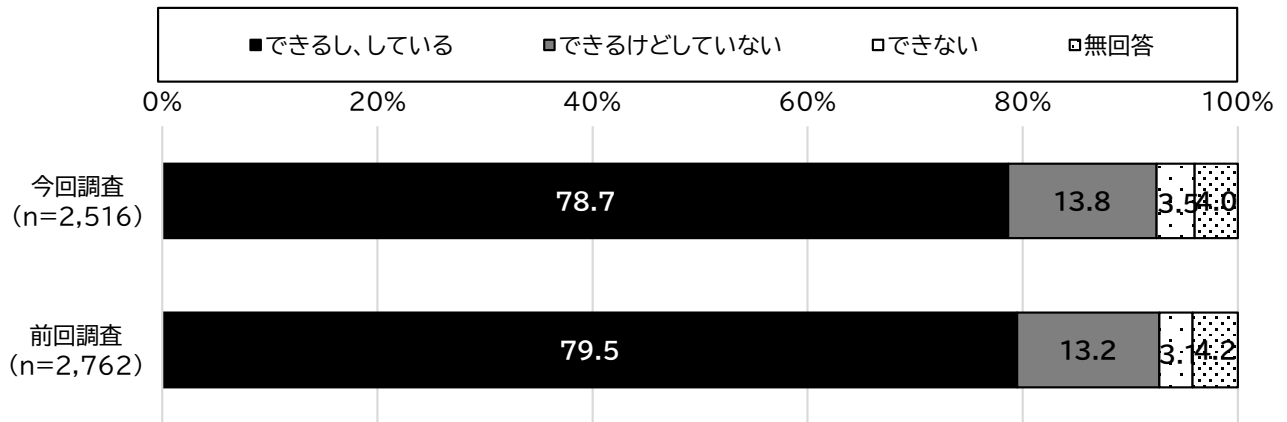
「できるし、している」と回答した方が、全体では71.5%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。





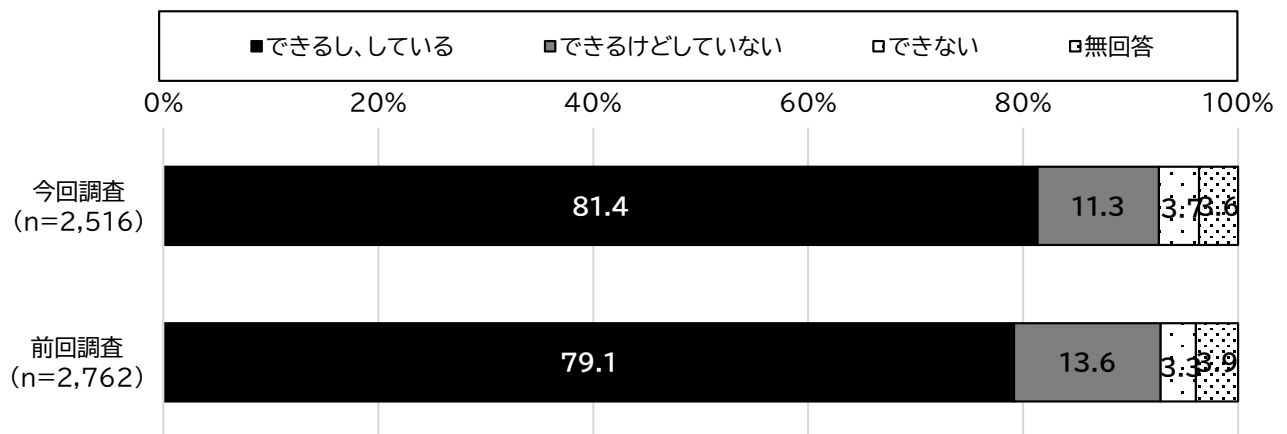
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか (SA)

「できるし、している」と回答した方が、全体では78.7%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



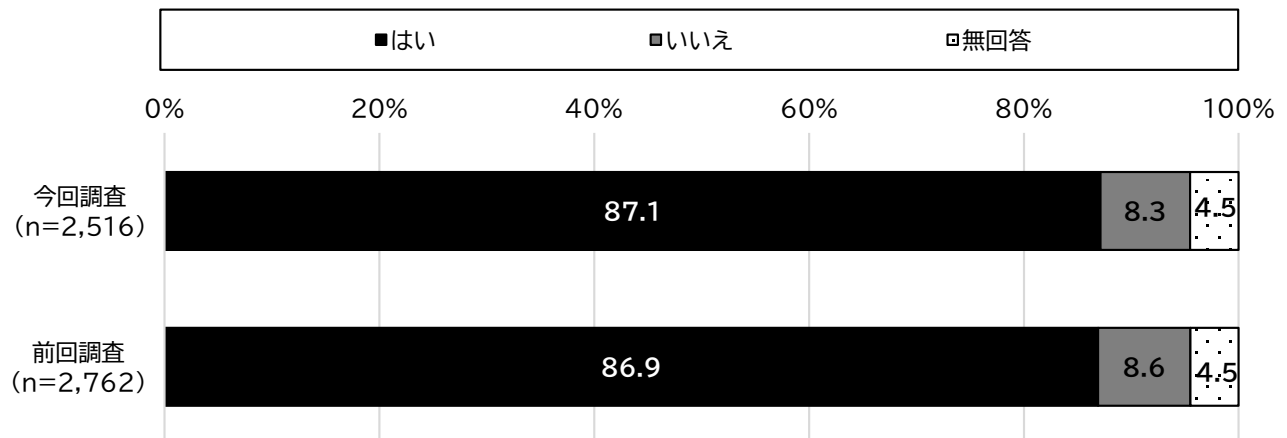
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (SA)

「できるし、している」と回答した方が、全体では81.4%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



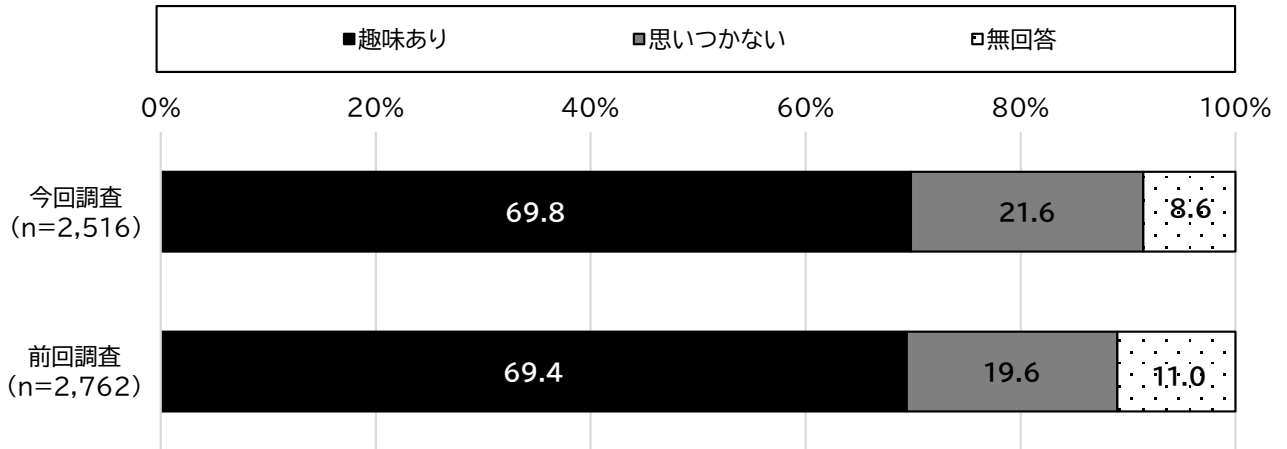
(9) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか (SA)

書類を書けると回答した方が、全体では87.1%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



(10) 趣味はありますか (S A)

趣味があると回答した方が、全体では 69.8%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。

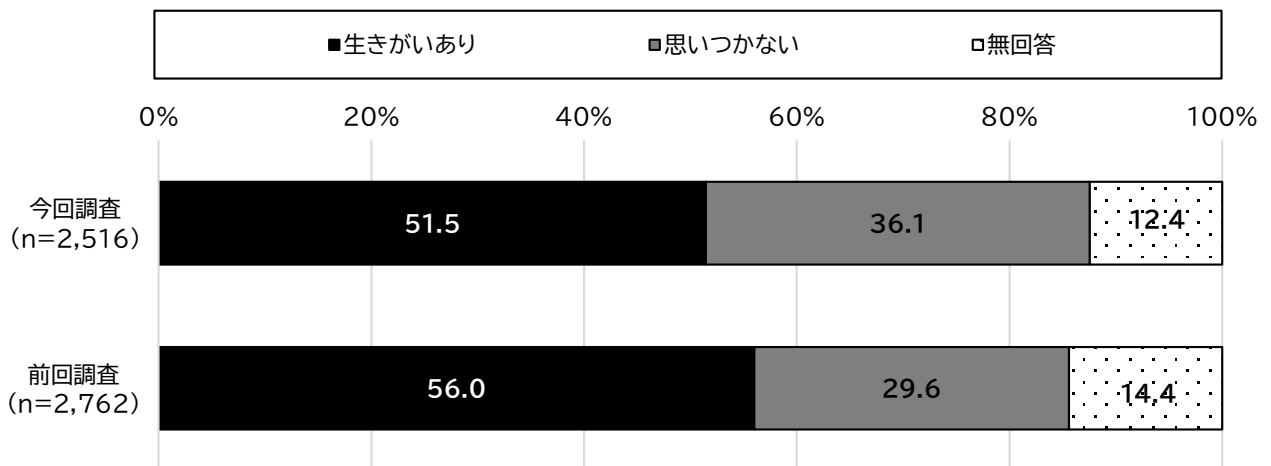


代表的な趣味

・パークゴルフ    ・編み物、手芸    ・ガーデニング、園芸    ・カラオケ  
など

(11) 生きがいはありますか (S A)

生きがいがあると回答した方が、全体では 51.5%となっています。前回調査との比較では、生きがいがあると回答した方の割合が、わずかに減少しています。



代表的な生きがい

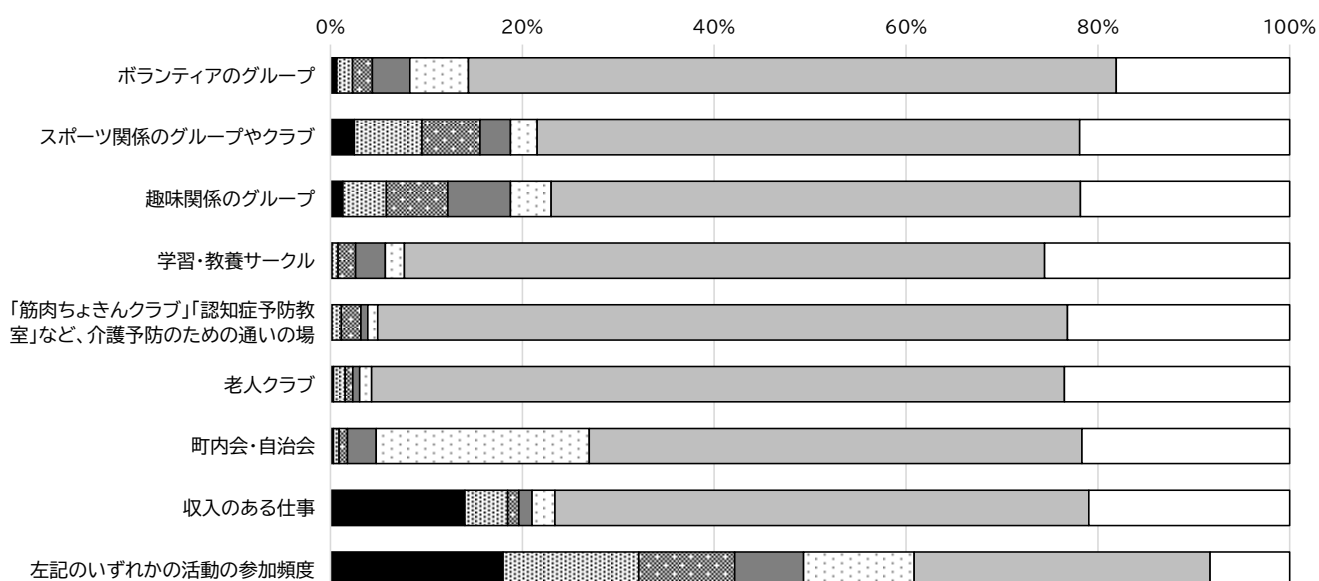
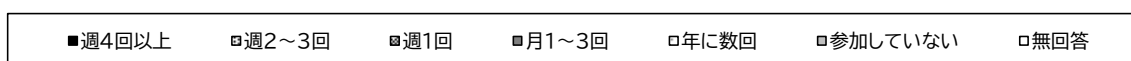
・孫やひ孫の成長、孫やひ孫と会うこと    ・旅行  
・趣味    ・家族    ・仕事    など

## 問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか (SA)

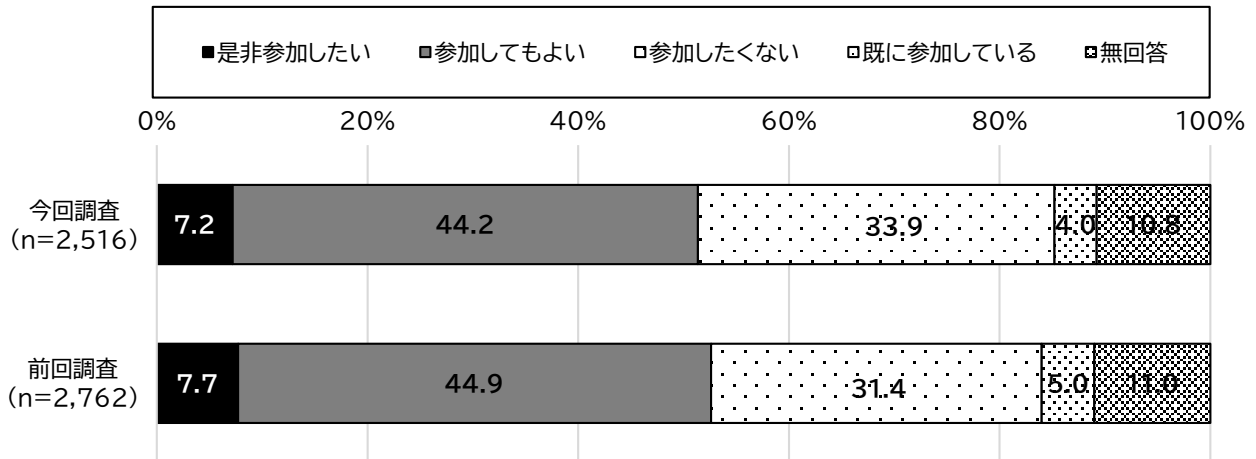
週1回以上参加している方の割合が最も高いのは「収入のある仕事」(19.7%)で、次いで「スポーツ関係のグループやクラブ」の割合(15.5%)が高くなっています。いずれかの活動に週1回以上参加している方の割合は、42.1%となっています。

n=2,516	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	「筋肉ちよきんクラブ」「認知症予防教室」など、介護予防のための通いの場	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事	左記のいずれかの活動の参加頻度
	週4回以上	0.7	2.5	1.3	0.2	0.2	0.3	0.3	14.0
週2～3回	1.6	7.0	4.5	0.6	1.0	1.2	0.6	4.5	14.1
週1回	2.1	6.0	6.4	1.8	2.0	0.8	0.9	1.2	10.0
月1～3回	3.9	3.2	6.5	3.1	0.7	0.7	3.0	1.4	7.2
年に数回	6.1	2.8	4.3	2.0	1.0	1.2	22.2	2.4	11.5
参加していない	67.5	56.6	55.2	66.7	71.9	72.2	51.4	55.6	30.8
無回答	18.1	21.9	21.8	25.6	23.2	23.5	21.7	20.9	8.3
週1回以上	4.4	15.5	12.2	2.6	3.2	2.3	1.8	19.7	42.1



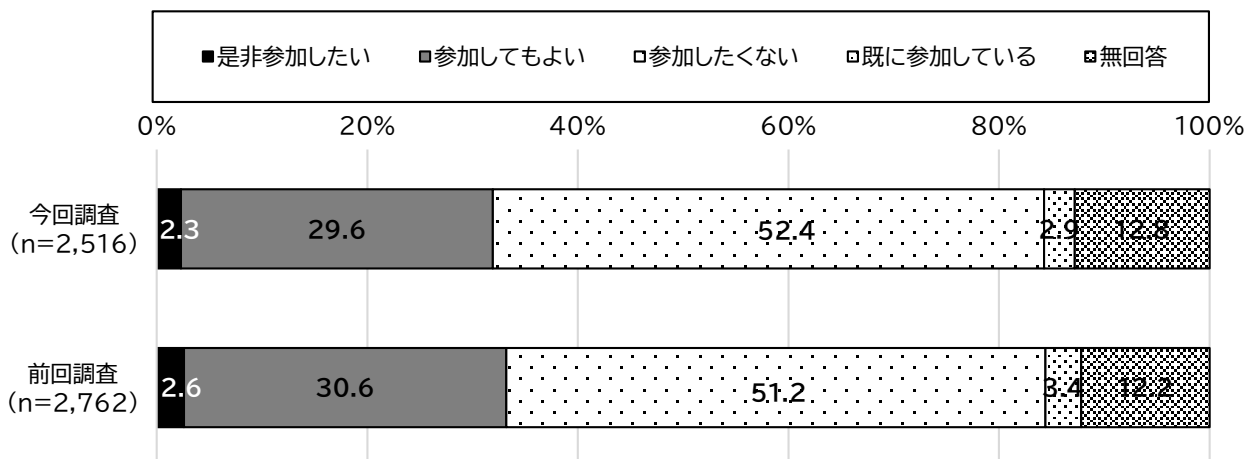
(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (SA)

参加者として参加意向があると回答した方(「是非参加したい」と「参加してもよい」)は、全体では51.4%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか (SA)

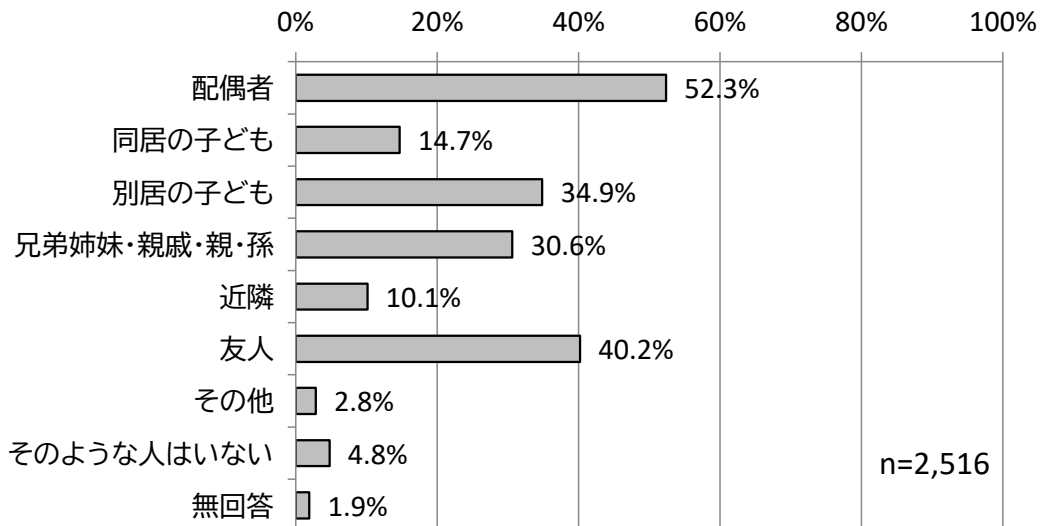
企画・運営として参加意向があると回答した方(「是非参加したい」と「参加してもよい」)は、全体では31.9%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



## 問6 たすけあいについて

### (1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（MA）

「配偶者」と回答した方の割合が52.3%と最も高く、次いで「友人」、「別居の子ども」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の順に回答した方の割合が高くなっています。「そのような人はいない」と回答した方が4.8%となっています。

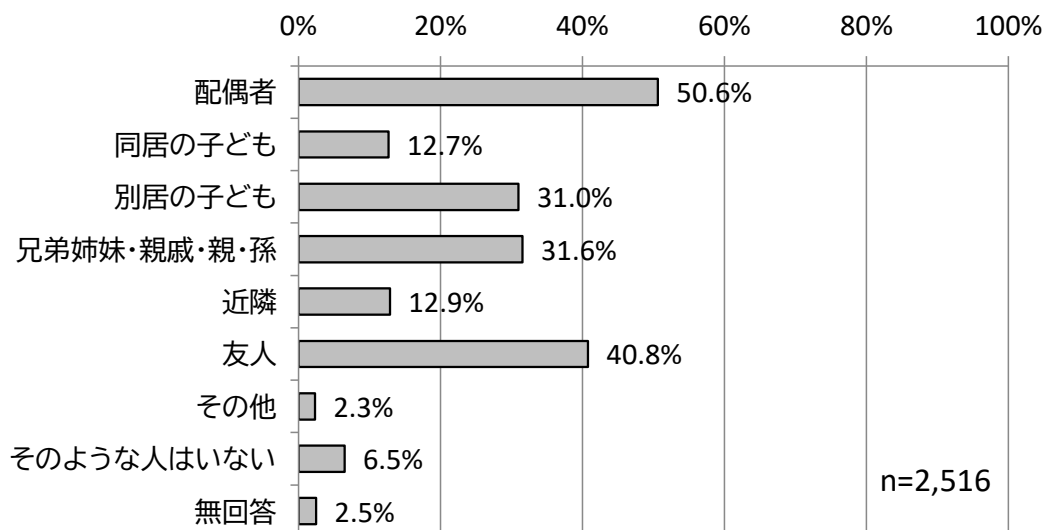


#### 「その他」の代表的なもの

・仕事仲間      ・ヘルパー      など

### (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（MA）

「配偶者」と回答した方の割合が50.6%と最も高く、次いで「友人」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「別居の子ども」と回答した方の割合が高くなっています。「そのような人はいない」と回答した方が6.5%となっています。

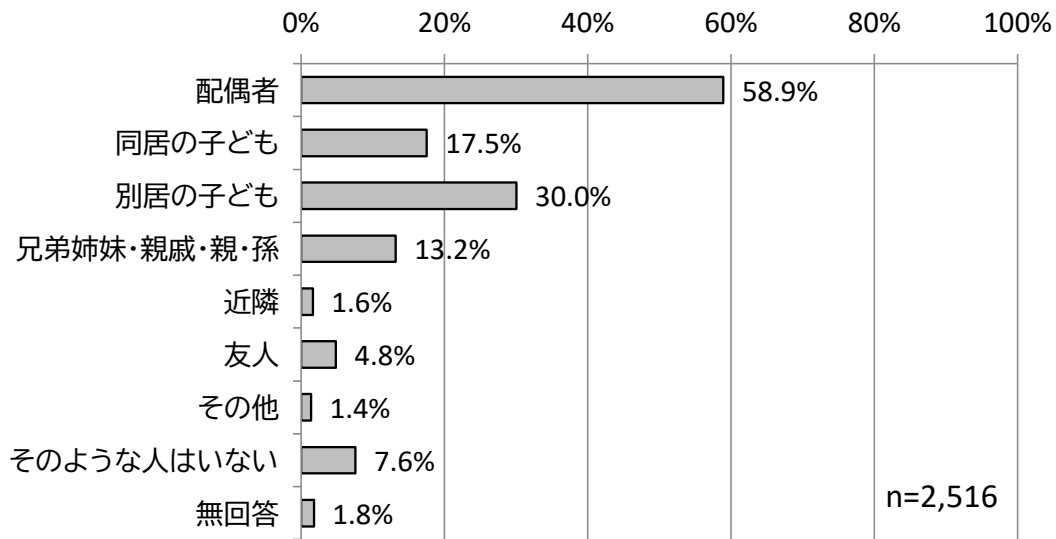


#### 「その他」の代表的なもの

・仕事仲間      ・知人      など

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (MA)

「配偶者」と回答した方の割合が58.9%と最も高く、次いで「別居の子ども」と回答した方の割合が高くなっています。「そのような人はいない」と回答した方が7.6%となっています。

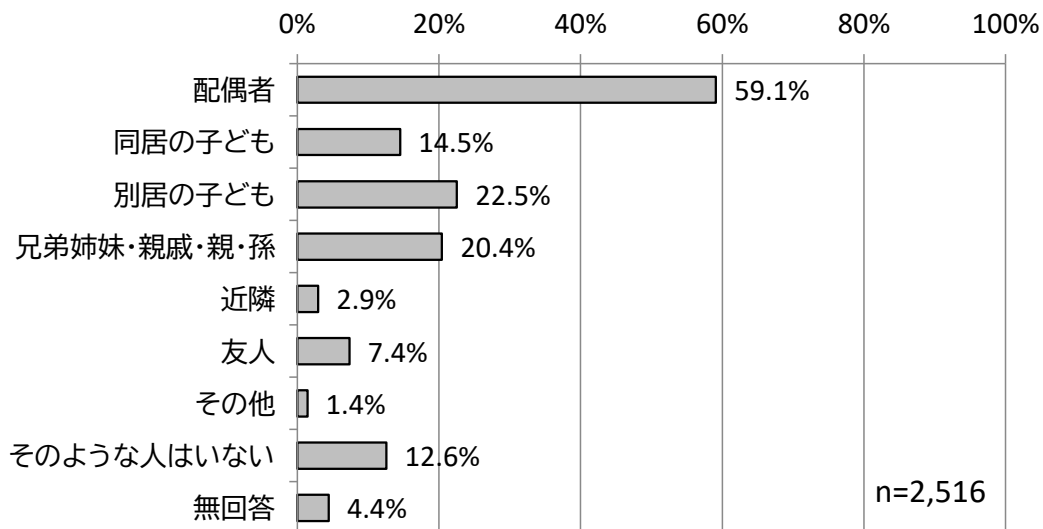


「その他」の代表的なもの

・わからない      ・パートナー      など

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人 (MA)

「配偶者」と回答した方の割合が59.1%と最も高く、次いで「別居の子ども」と回答した方の割合が高くなっています。「そのような人はいない」と回答した方が12.6%となっています。



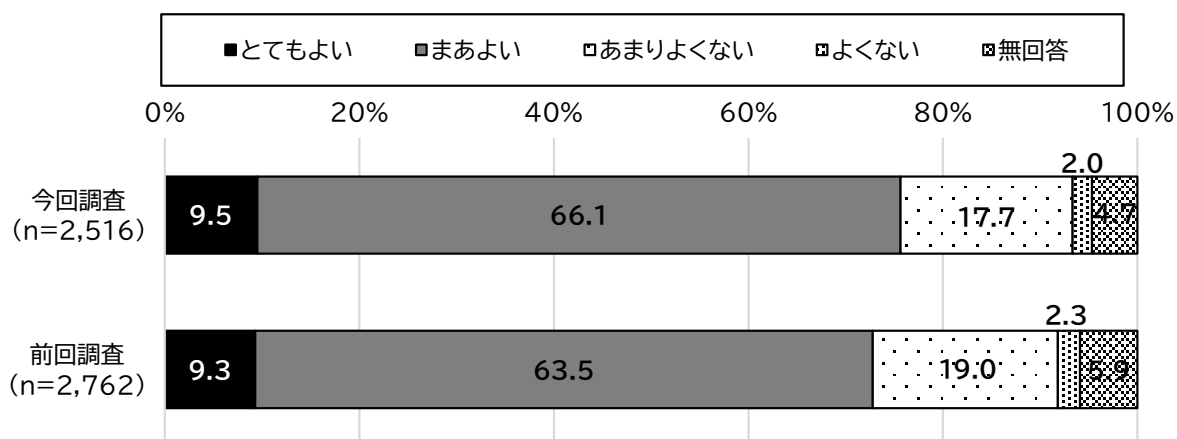
「その他」の代表的なもの

・できない      など

## 問7 健康について

### (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (SA)

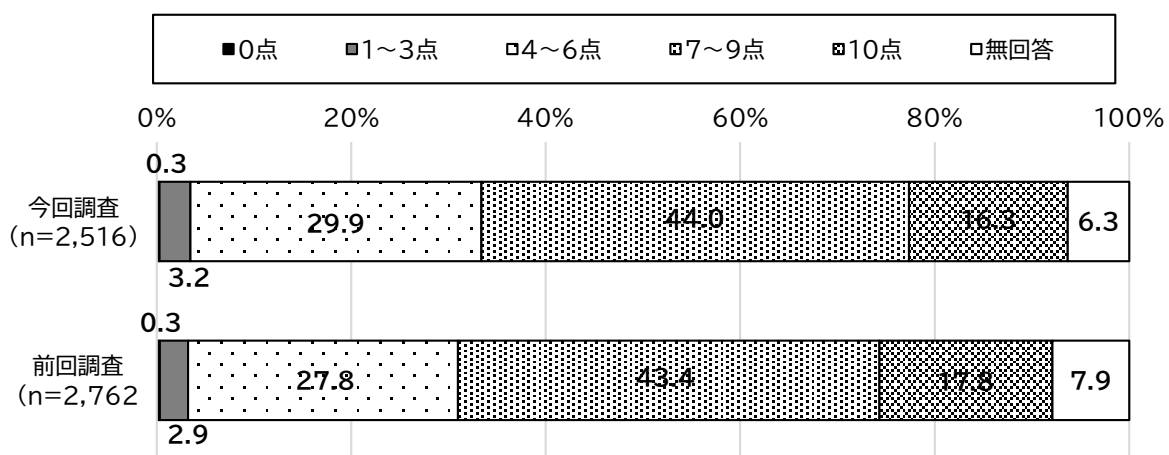
健康状態がよいと回答した方(「とてもよい」と「まあよい」)は、全体では75.6%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



### (2) あなたは、現在どの程度幸せですか (SA)

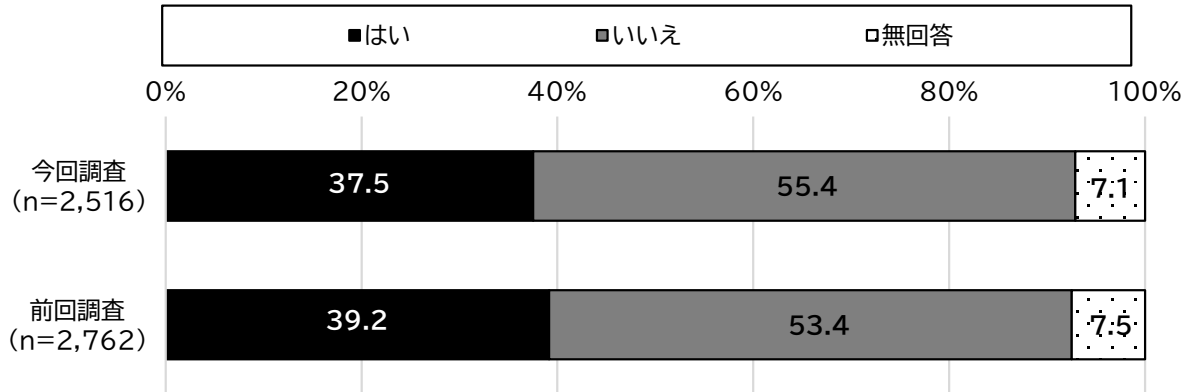
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

「7~9点」と回答した方の割合が最も高く、全体の44.0%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



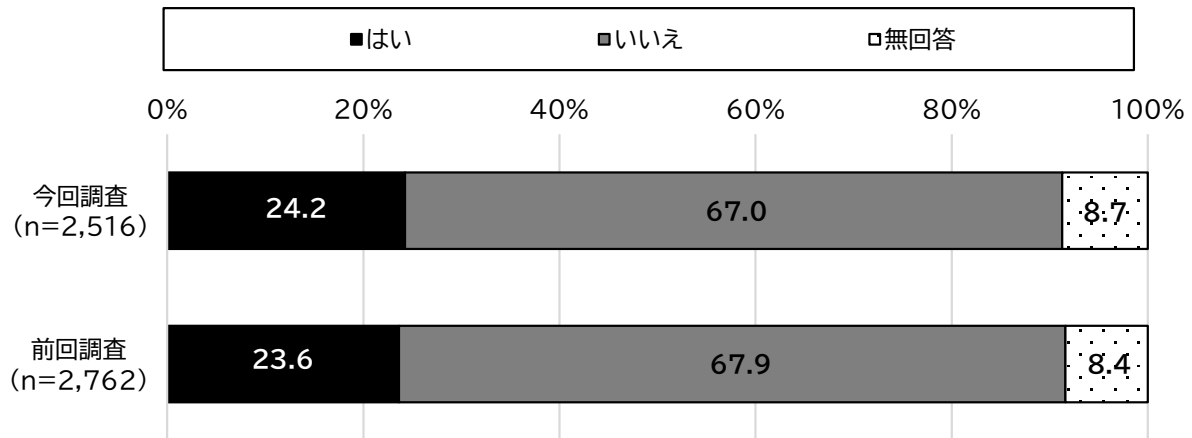
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (SA)

ゆううつな気持ちになったことがあると回答した方が、全体の37.5%となっています。前回調査との比較では、大きな変化はみられません。



(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (SA)

よくあったと回答した方が全体の24.2%となっています。前回調査との比較では、大きな変化はみられません。

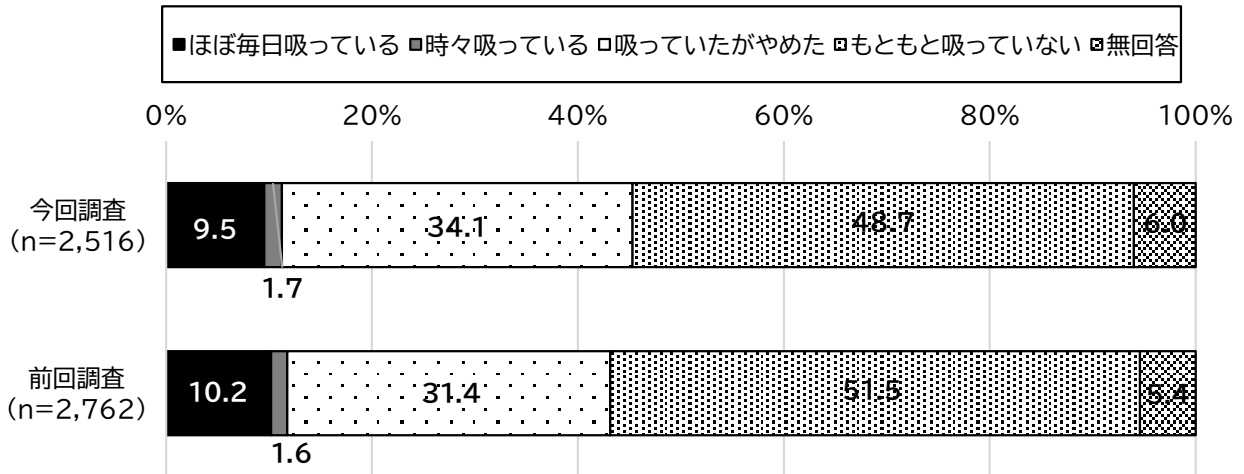




## (5) タバコは吸っていますか (SA)

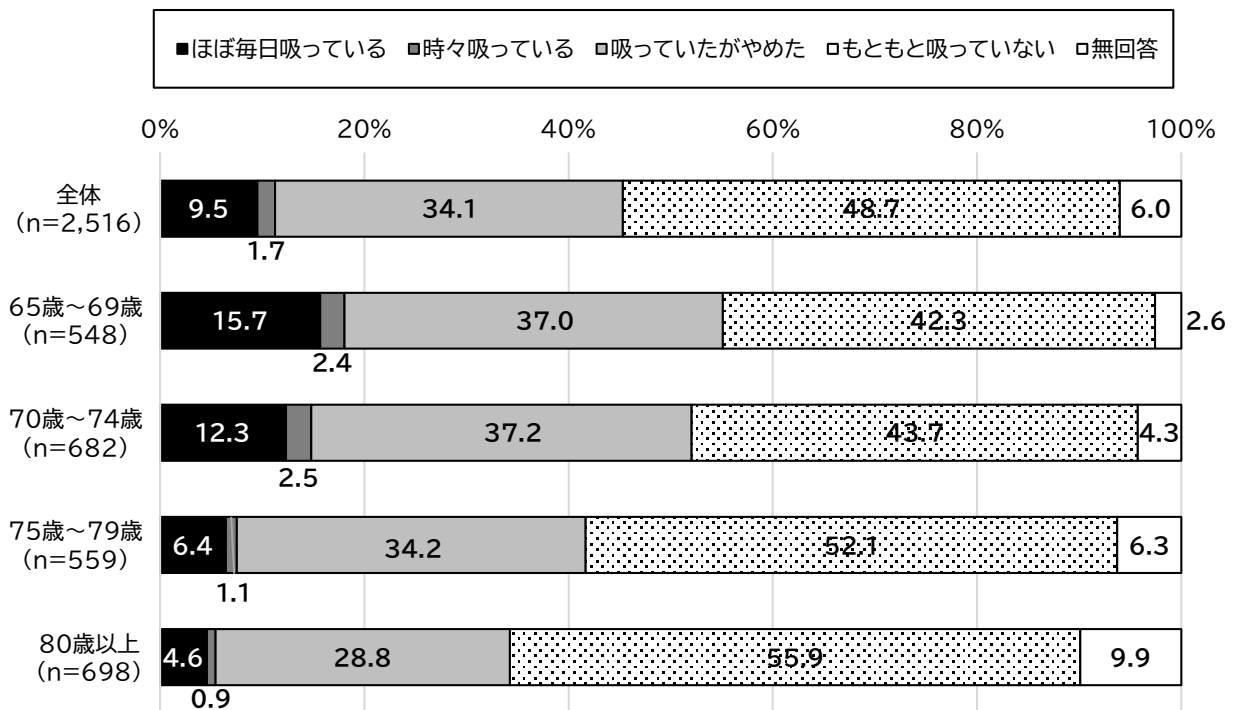
### 【経年比較】

「もともと吸っていない」と回答した方の割合が最も高く、全体の48.7%となっており、「ほぼ毎日吸っている」と回答した方は全体の9.5%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



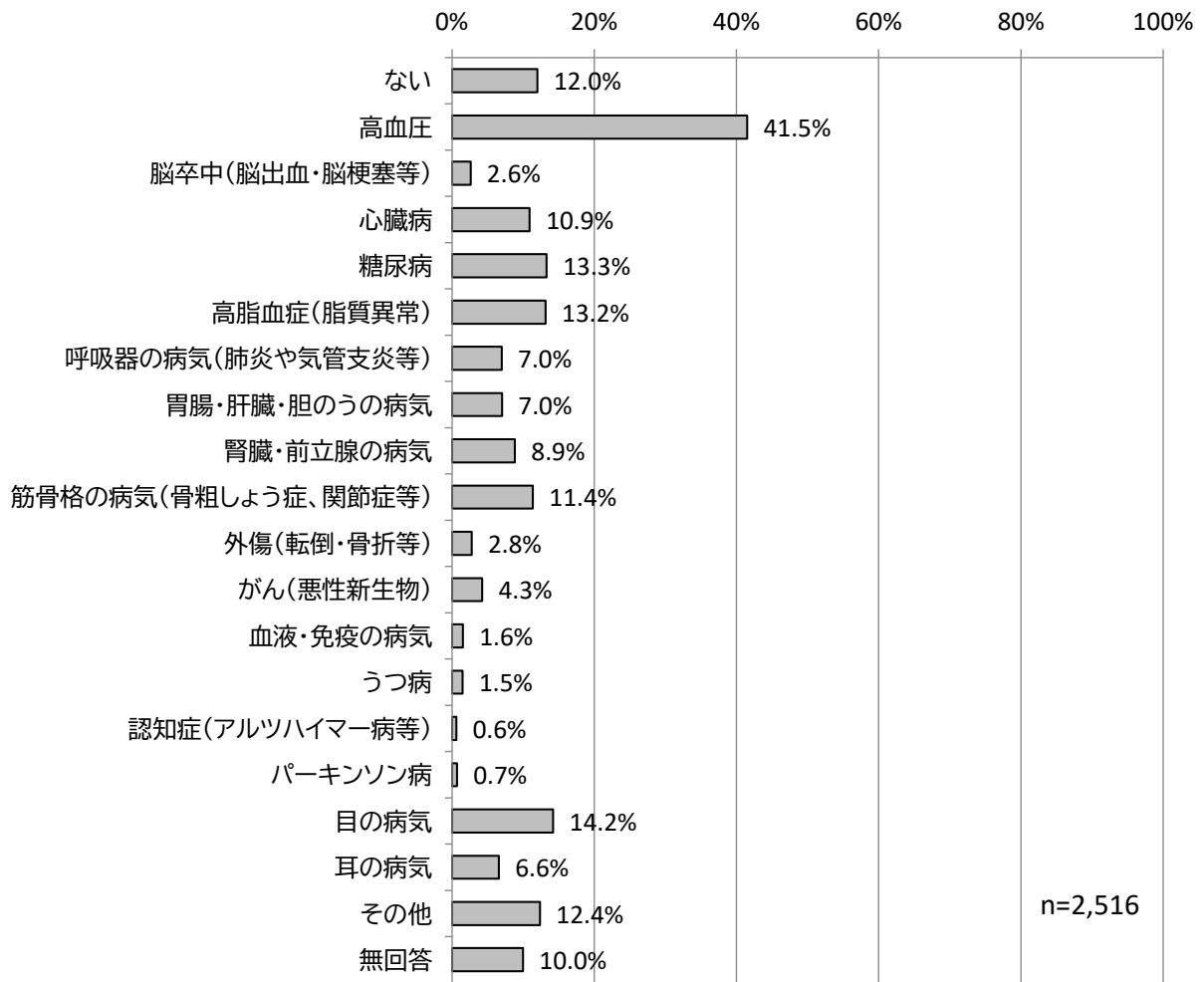
### 【年齢別】

年齢別にみると、高齢になるにつれ喫煙の頻度は減少しており、80歳以上になると「ほぼ毎日吸っている」と回答した方の割合は4.6%となっています。



(6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (MA)

「高血圧」と回答した方が最も高く、41.5%となっています。次いで「目の病気」、「糖尿病」、「高脂血症(脂質異常)」の順に割合が高くなっています。



「その他」の代表的なもの

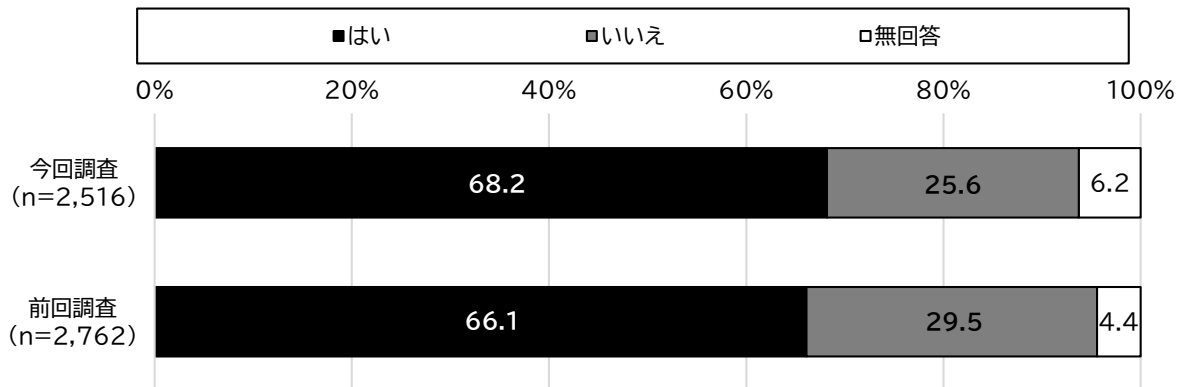
・甲状腺    ・リウマチ    ・腰痛    ・痛風    など

## 問8 地域包括支援センターについて

(1) 高齢者の支援窓口である地域包括支援センターを知っていますか (S A)

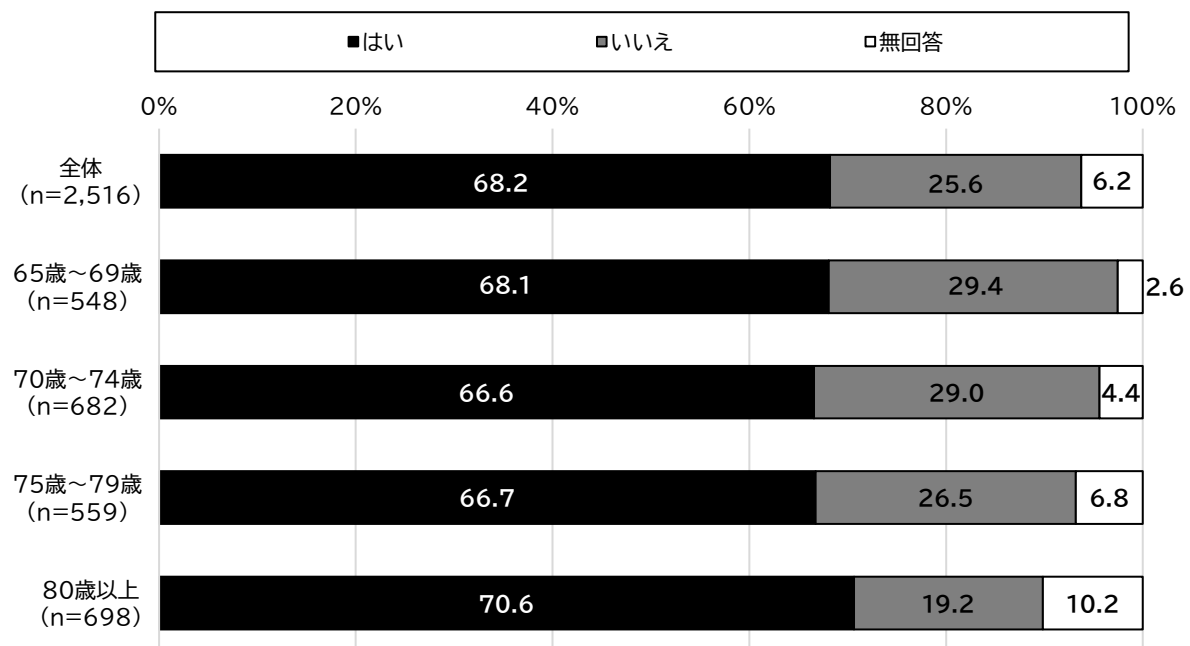
### 【経年比較】

知っているとは回答した方は全体の68.2%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



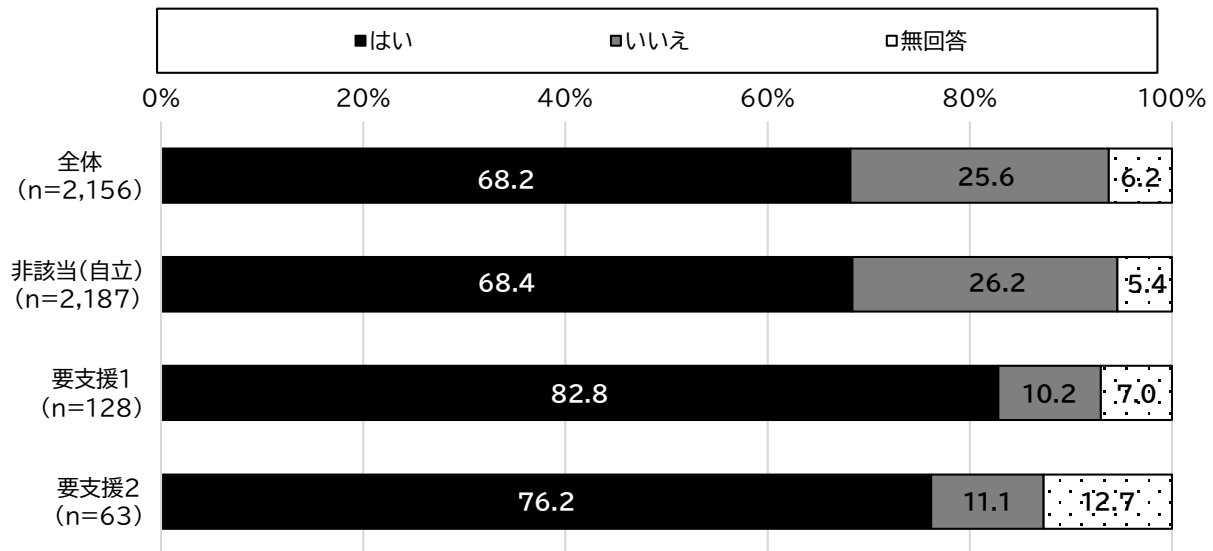
### 【年齢別】

年齢別にみると、知っているとは回答した方の割合に大きな違いはありません。



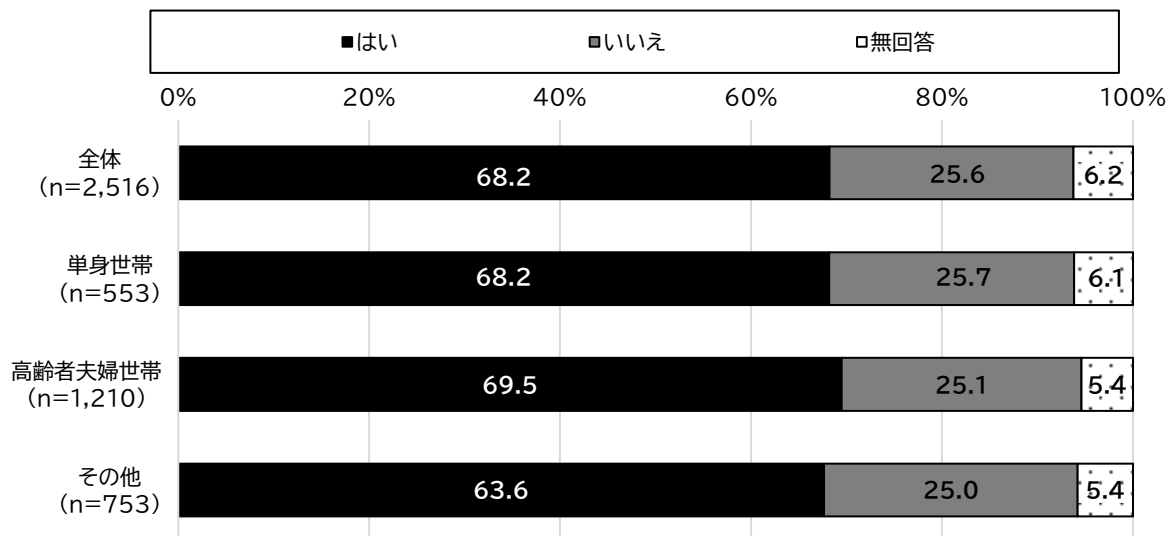
### 【要介護度別】

要介護状態区分別にみると、要支援1において知っていると回答した方の割合が82.8%と高くなっています。



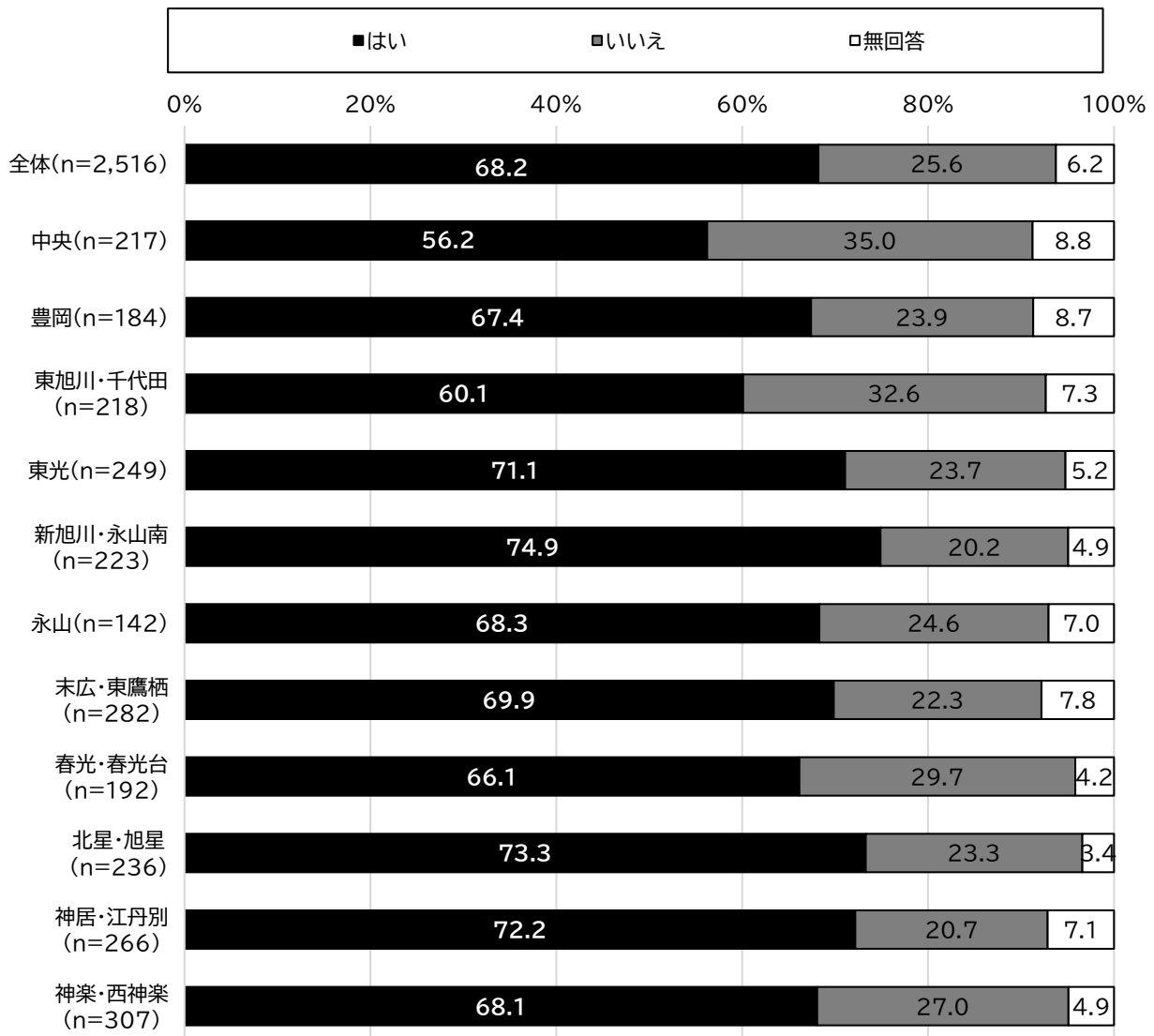
### 【世帯類型別】

世帯類型別にみると、知っていると回答した方の割合は、単身世帯と高齢者夫婦世帯で大きな違いはありませんが、その他世帯(息子・娘と同居等)ではやや低くなっています。



## 【地区別】

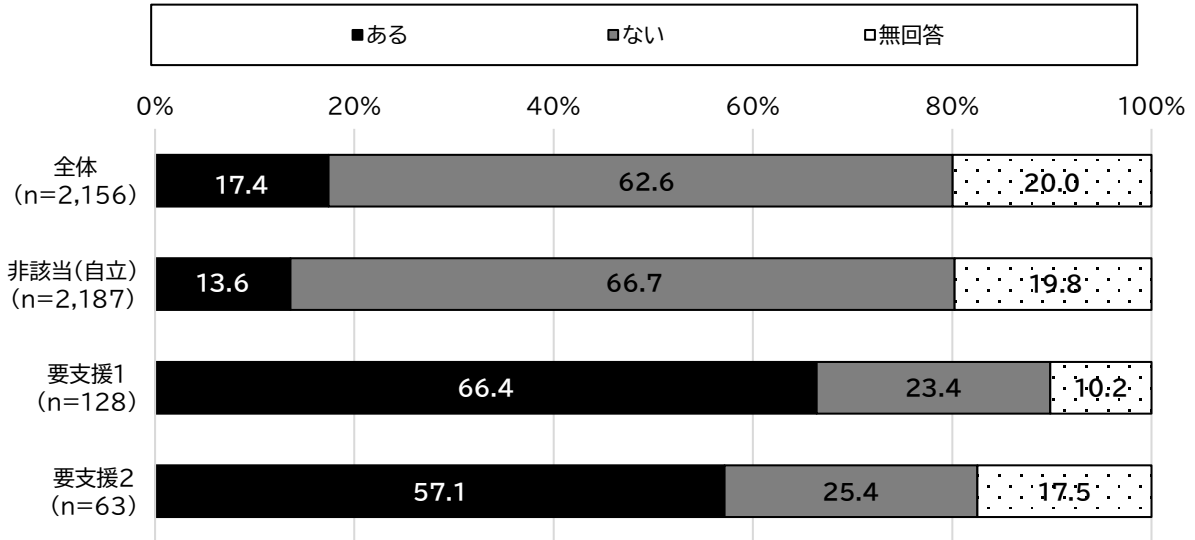
地区別にみると、中央地区において知っていると回答した方の割合が56.2%と低くなっています。中央地区は、近年のマンションの増加により市内外からの高齢者の転入が多く、町内会未加入者も多いことから、高齢者にとって重要な情報が届きにくい傾向があるものと考えられます。



(2) 【(1) で「1.はい」の方のみ】

地域包括支援センターを使用したことはありますか (SA)

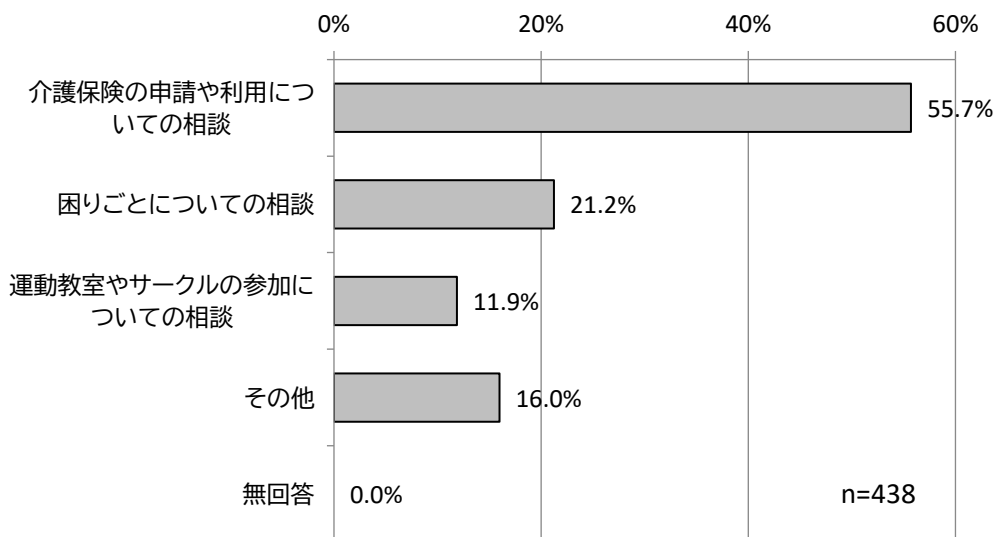
利用したことがあると回答した方は全体の17.4%となっています。要介護状態区別にみると、要支援1と要支援2においては利用したことがあると回答した割合が高くなっています。



(3) 【(2) で「1. ある」の方のみ】

どのようなことで利用しましたか (MA)

「介護保険の申請や利用についての相談」と回答した方の割合が55.7%と最も高く、次いで「困りごとについての相談」と回答した方の割合が高くなっています。



「その他」の代表的なもの

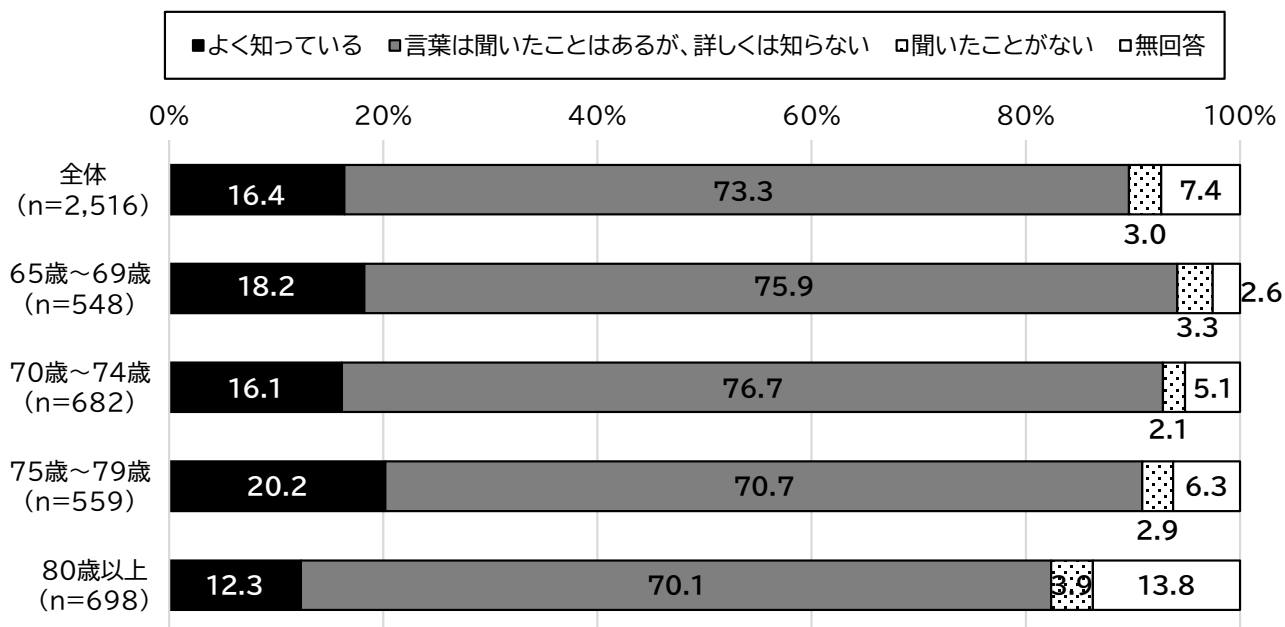
- ・親の介護について
- ・家族の介護について
- ・デイサービスについて

など

## 問9 在宅医療について

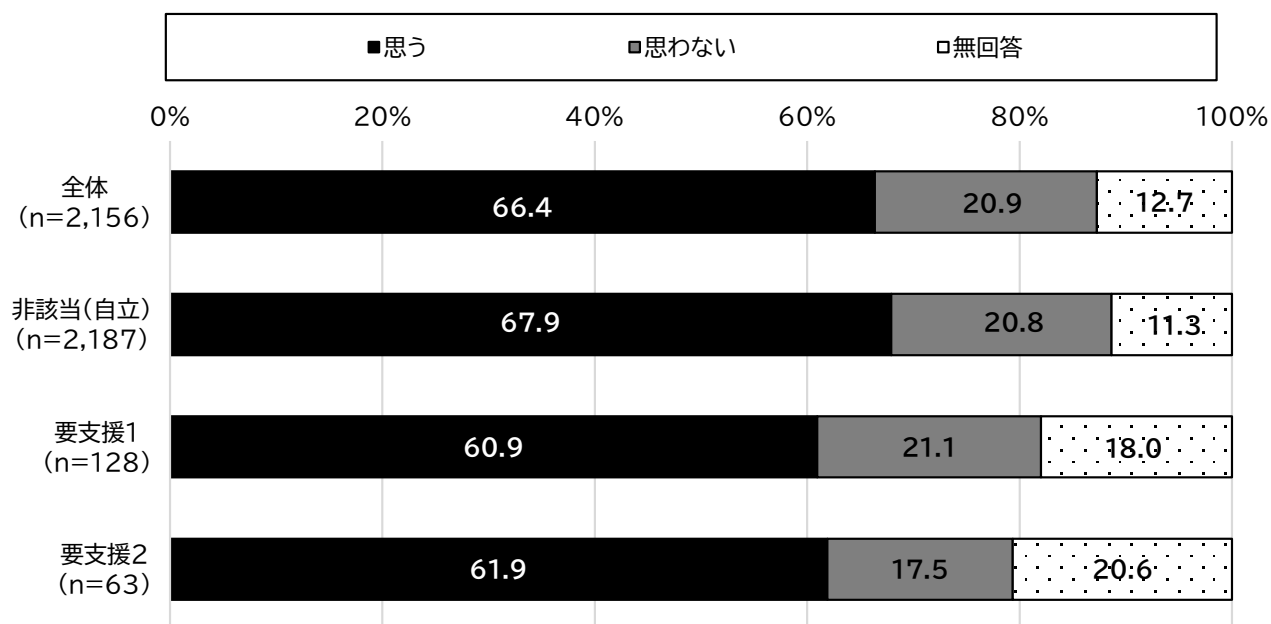
### (1) 在宅医療について知っていますか (SA)

「よく知っている」と回答した方は全体の16.4%、「言葉は聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と回答した方は全体の73.3%となっています。年齢別でみると、80歳以上の認知度が低くなっています。



### (2) 通院できなくなったとき、自宅で訪問診療を受けたいと思いますか (SA)

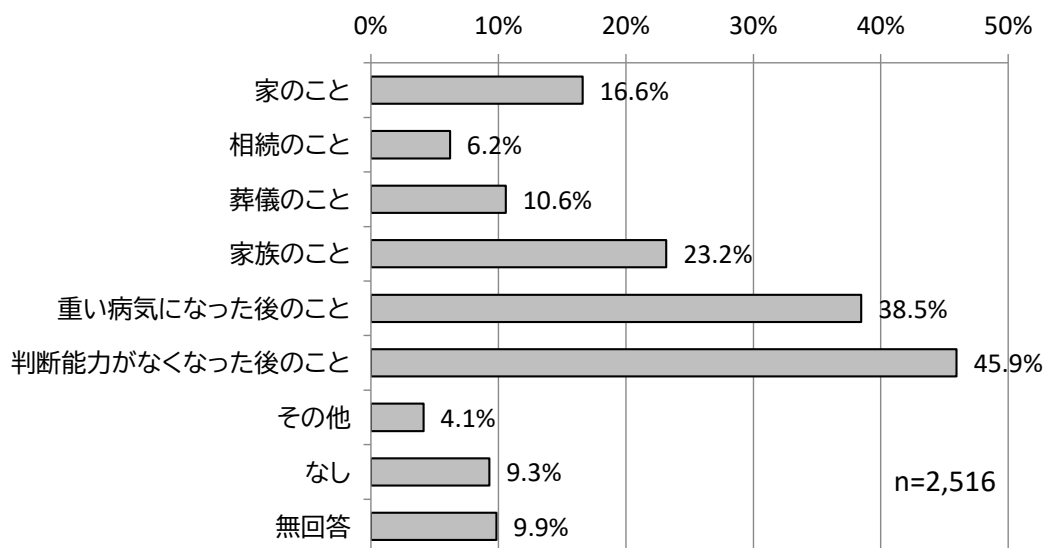
受けたいと思うと回答した方は全体の66.4%、受けたいと思わないと回答した方は全体の20.9%となっています。要介護状態区別にみると、非該当(自立)において、わずかに割合が高くなっています。



## 問 10 将来の不安について

### (1) 将来に向けて不安に思っていることは何ですか (MA)

「判断能力がなくなった後のこと」と回答した方の割合が最も高く、45.9%となっています。次いで「重い病気になった後のこと」、「家族のこと」の順に割合が高くなっています。



#### 「その他」の代表的なもの

- ・経済的なこと
- ・年金
- ・家族のこと
- ・除雪
- など



## 問 11 最期を迎える場所について

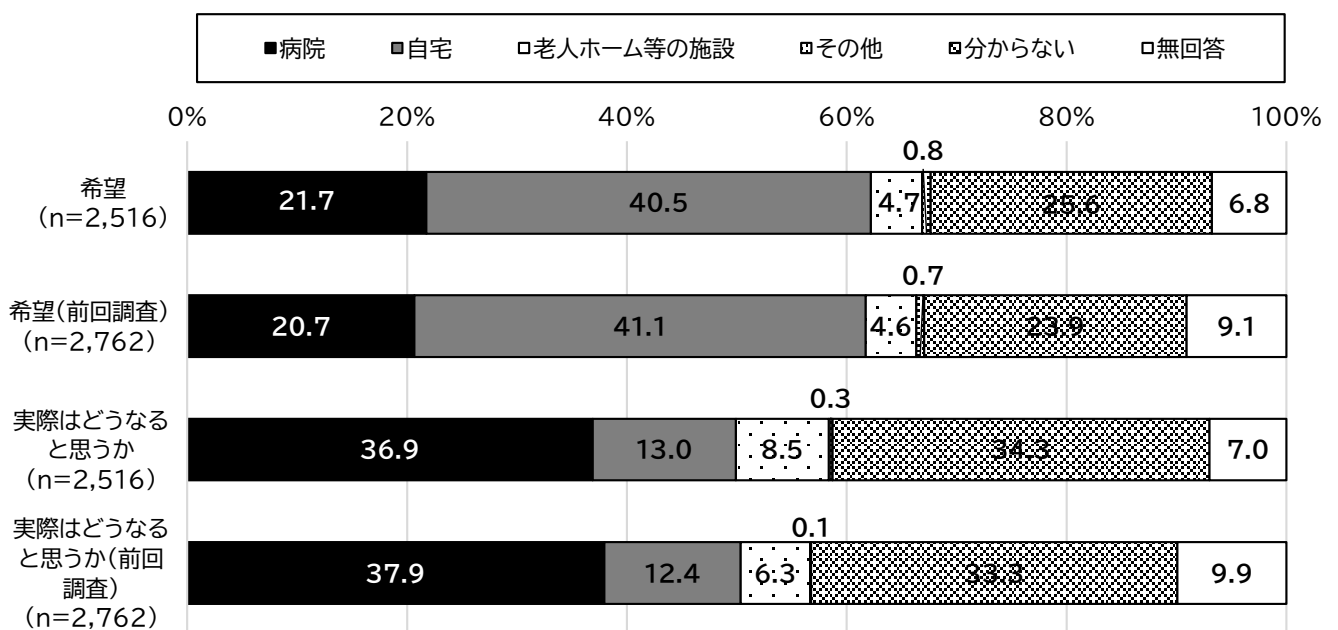
(1) 希望としては、どこで最期を迎えたいとお考えですか (SA)

(2) 現状では、実際に最期を迎えられる場所はどこになると思われますか (SA)

希望としては「自宅」と回答した方の割合が 40.5%と最も高く、「分からない」と回答した方の割合は、25.6%でした。

実際はどうなると思うかでは、「病院」と回答した方の割合が 36.9%と最も高く、「分からない」と回答した方の割合は、34.3%でした。

いずれも前回調査との比較では、大きな変化はありません。



### 希望の「その他」の代表的なもの

・どこでもよい      ・路上      など

### 実際はどうなると思うかの「その他」の代表的なもの

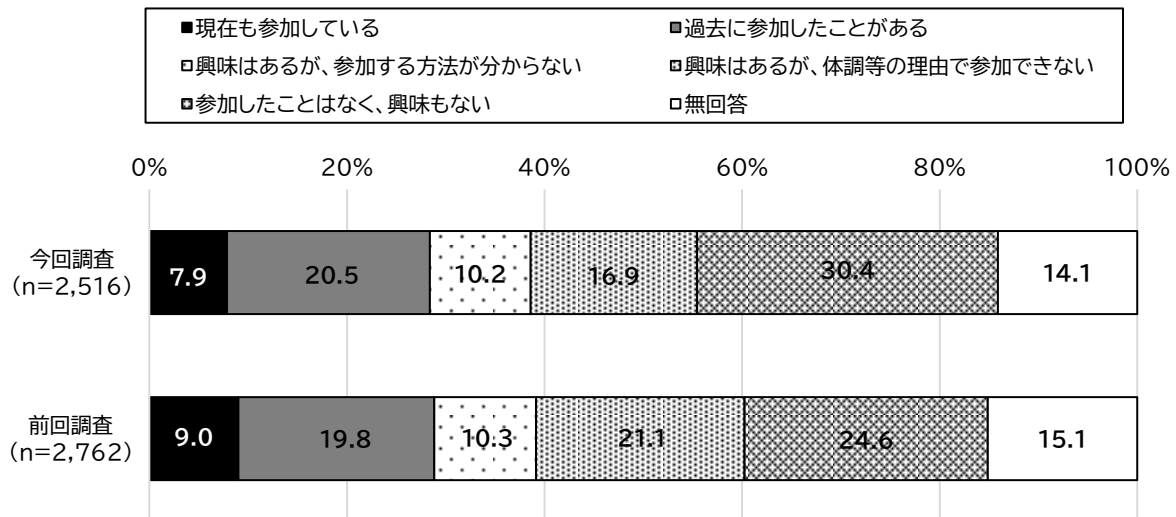
・状況による      ・不明      など

## 問 12 ボランティア活動について

(1) ボランティア活動に参加したことはありますか (SA)

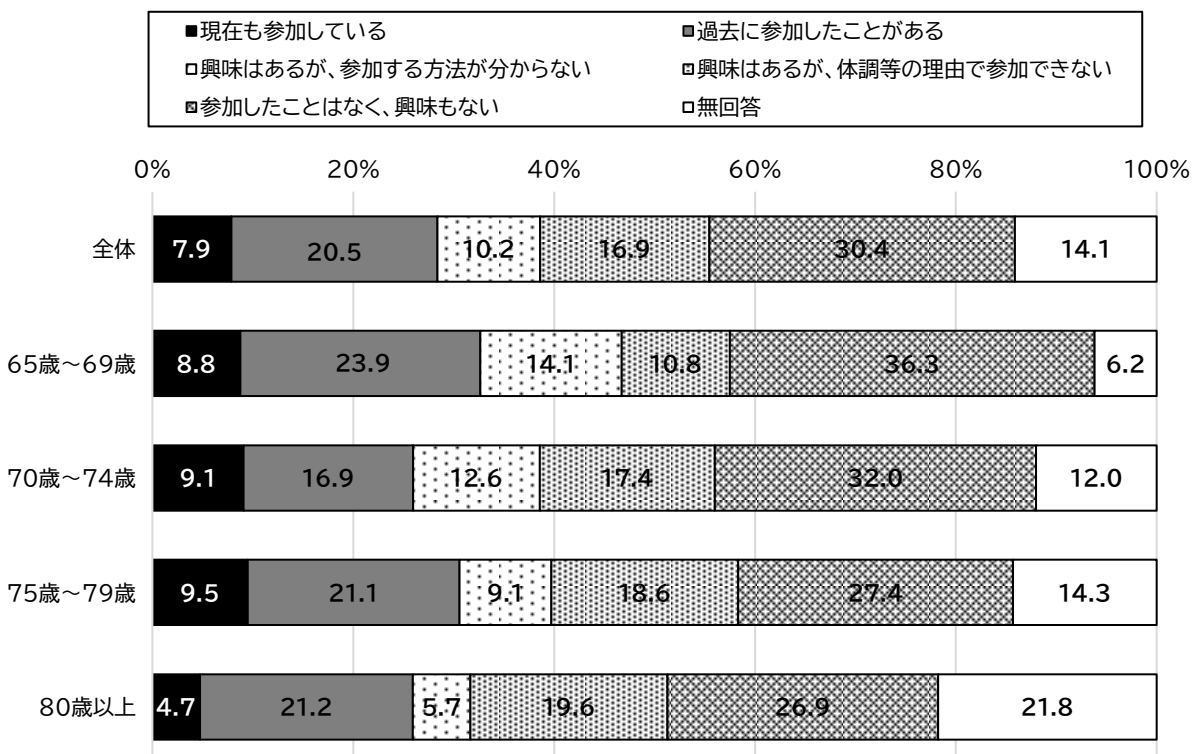
### 【経年比較】

「現在も参加している」と回答した方の割合が、7.9%となっています。また「興味はあるが、参加する方法が分からない」と回答した方の割合は10.2%となっています。前回調査との比較では、「参加したことはなく、興味もない」と回答した方の割合が増加しています。



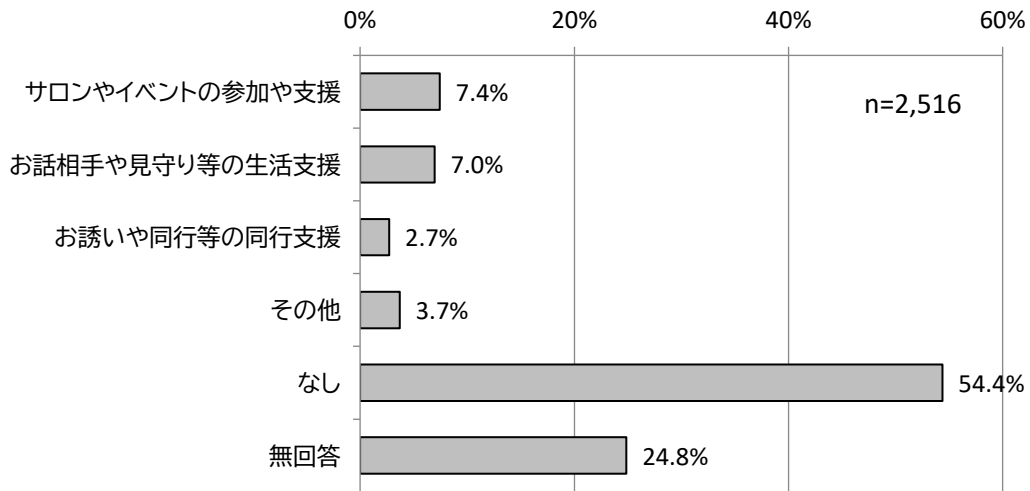
### 【年齢別】

年齢別にみると、「現在も参加している」と回答した方の割合は80歳以上になると低くなっています。「参加したことはなく、興味もない」と回答した方の割合は、年齢が低いほど高く、65歳～69歳では36.3%となっています。高齢になると無回答の割合も増加するため、年齢とボランティアへの意欲に明らかな関係があるとは言いきれません。



(2) 参加してみたいボランティア活動はありますか (MA)

「なし」と回答した方が、54.4%と半数を超える結果となっています。

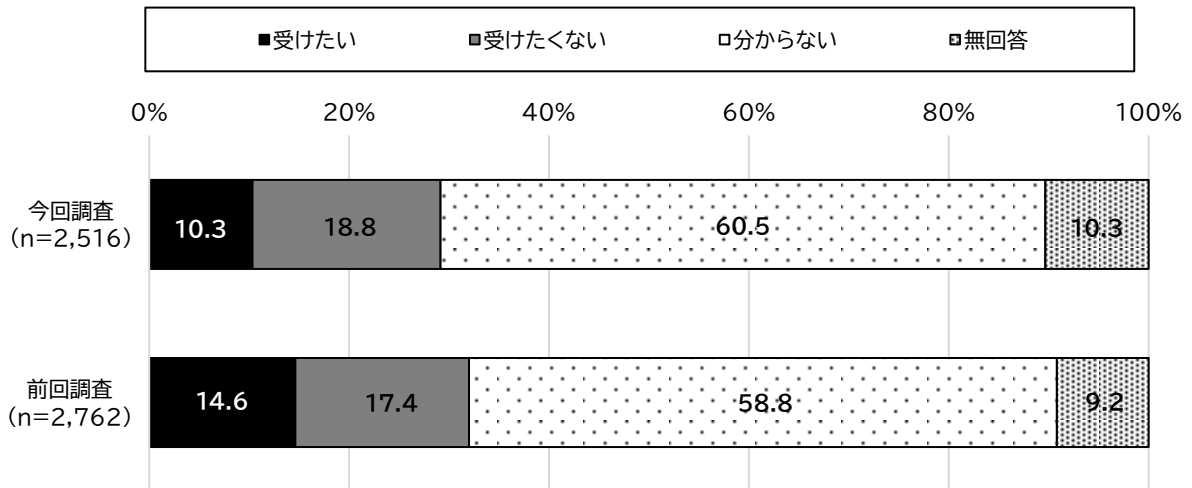


「その他」の代表的なもの

- ・町内活動
- ・子育て支援
- ・わからない
- など

(3) 現在又は将来、ボランティアによる支援を受けたいと思いますか (SA)

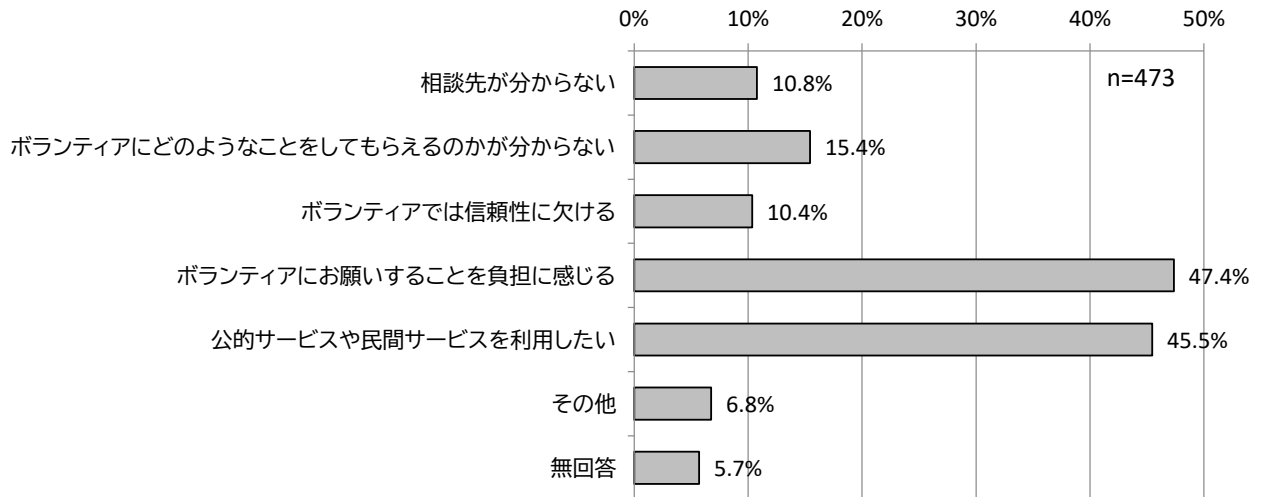
「分からない」と回答した方の割合が60.5%と最も高く、次いで「受けたくない」と回答した方の割合が18.8%と高くなっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



(4) 【(3) で「2. 受けたくない」の方のみ】

受けたくない理由は何ですか (MA)

「ボランティアをお願いすることを負担に感じる」と回答した方の割合が47.4%と最も高く、次いで「公的サービスや民間サービスを利用したい」と回答した方の割合が高くなっています。



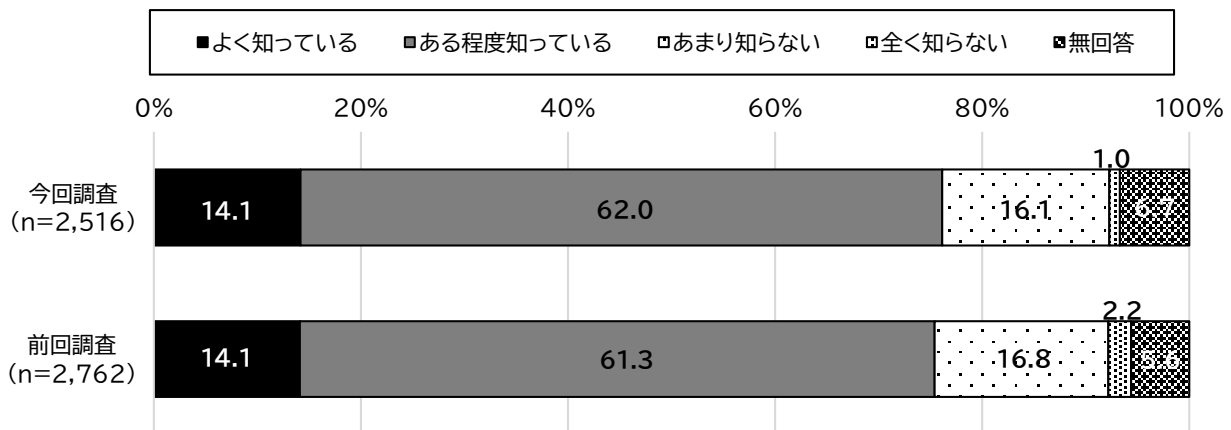
「その他」の代表的なもの

・必要ない    ・自力でやりたい    など

## 問 13 認知症について

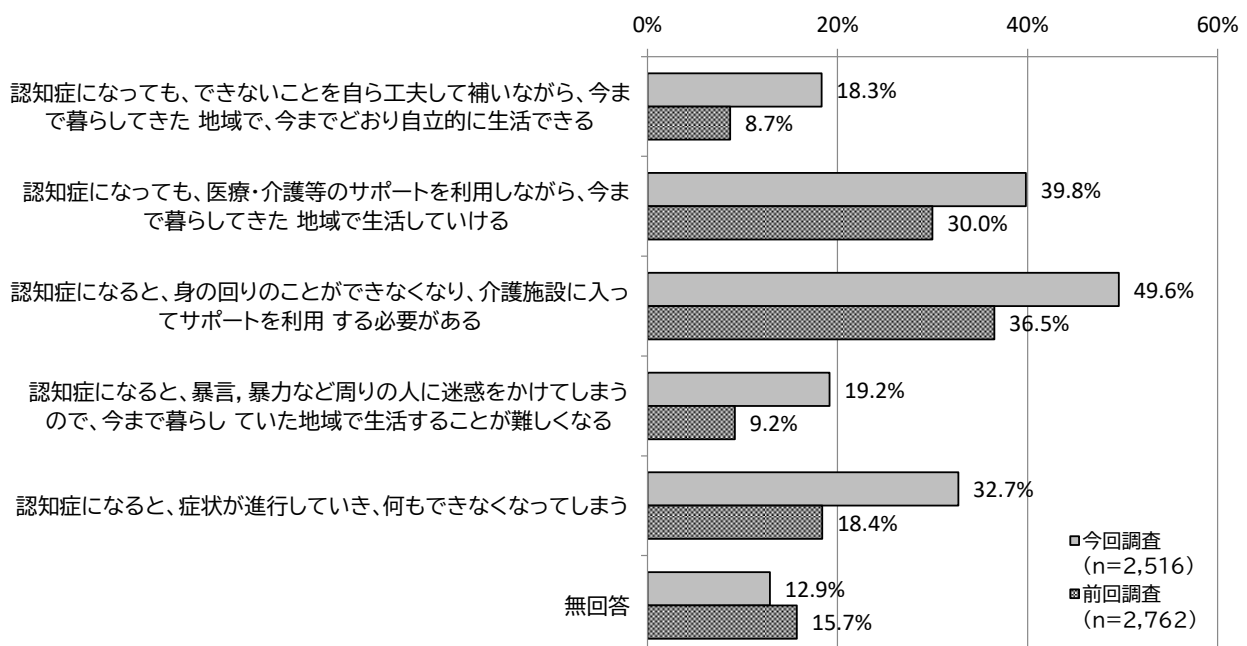
### (1) 認知症について、どの程度知っていますか (SA)

知っている(「よく知っている」, 「ある程度知っている」と回答した方の割合が76.1%, 知らない(「あまり知らない」, 「全く知らない」と回答した方の割合は, 17.1%となっています。前回調査との比較では, 大きな傾向の変化はみられません。



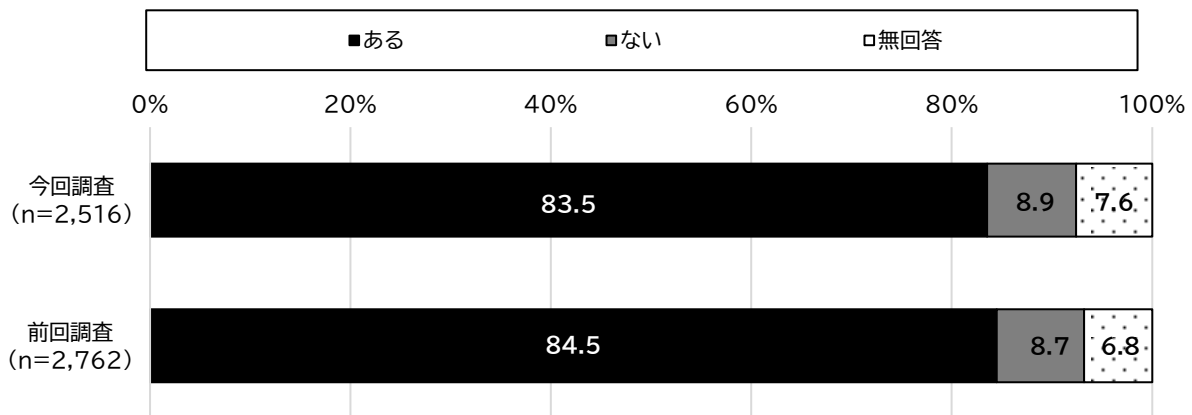
### (2) 認知症について、どのようなイメージを持っていますか (MA)

「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用する必要がある」と回答した方の割合が49.6%と最も高く、次いで「認知症になっても、医療・介護等のサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と回答した方の割合が高くなっています。前回調査との比較では、全体的に回答した割合が高くなっており、認知症について調べたり考えたりする高齢者が増加していることがうかがえます。



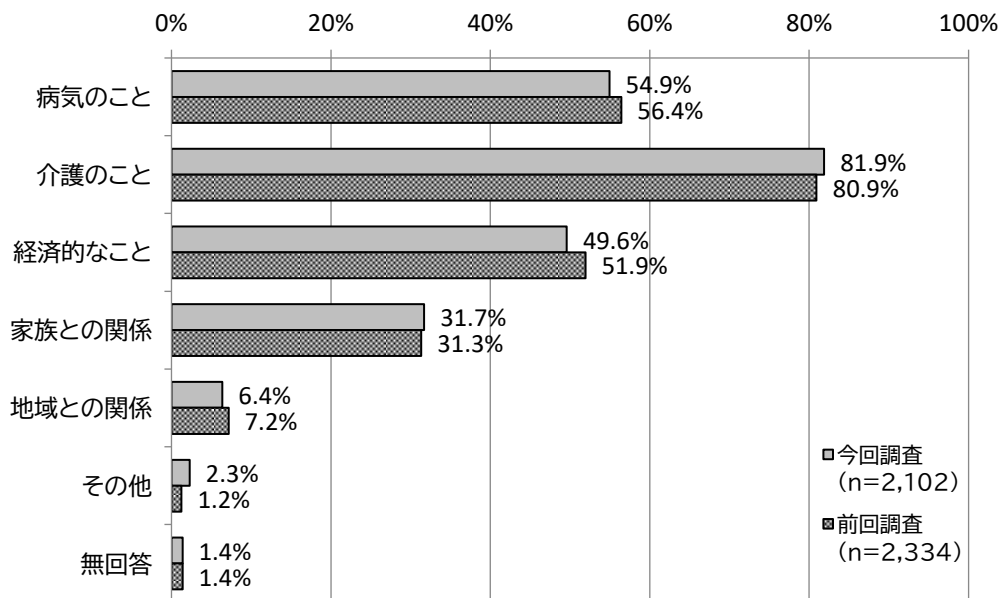
(3) あなたや家族が認知症になったとき、不安に思うことはありますか (SA)

「ある」と回答した方の割合が83.5%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



(4) 【(3)で「1. ある」の方のみ】  
不安に思うことは何ですか (MA)

「介護のこと」と回答した方の割合が81.9%と最も高く、次いで「病気のこと」、「経済のこと」と回答した方の割合が高くなっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



「その他」の代表的なもの

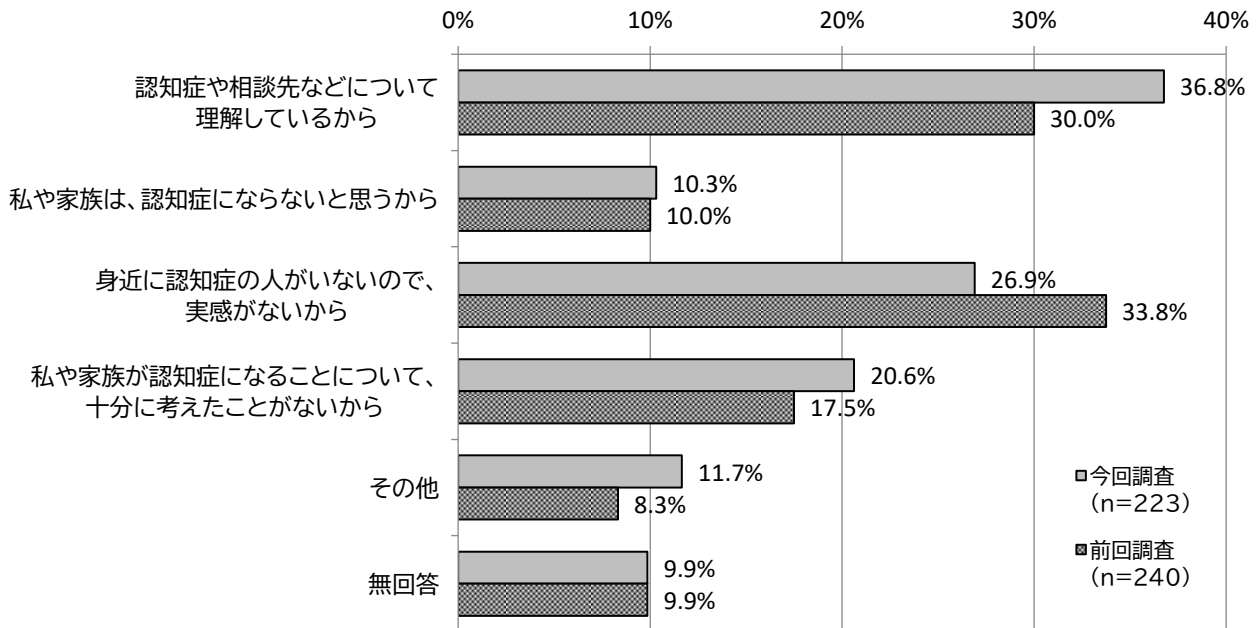
- ・一人の生活への不安
- ・家族への負担
- など

(4) 【(3) で「2. ない」の方のみ】

不安に思わない理由は何ですか (MA)

「認知症や相談先などについて理解しているから」と回答した方の割合が36.8%と最も高く、次いで「身近に認知症の人がいないので、実感がないから」と回答した方の割合が高くなっています。

前回調査との比較では、「認知症や相談先などについて理解しているから」の割合が増加する一方で、「身近に認知症の人がいないので、実感がないから」が減少しています。認知症への理解や関心が高まっていることがうかがえます。



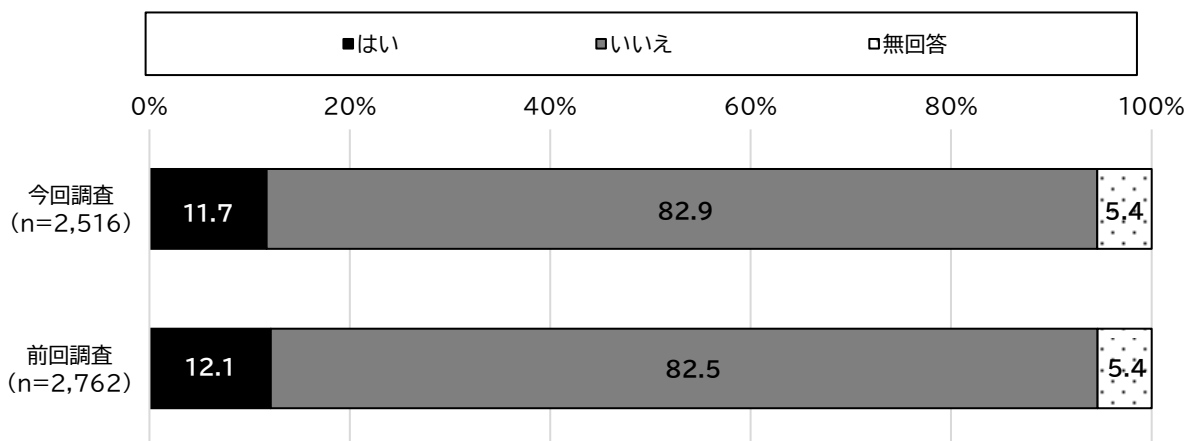
「その他」の代表的なもの

- ・ 介護施設に入るから
- ・ 介護の経験があるから など

## 問 14 認知症にかかる相談窓口の把握について

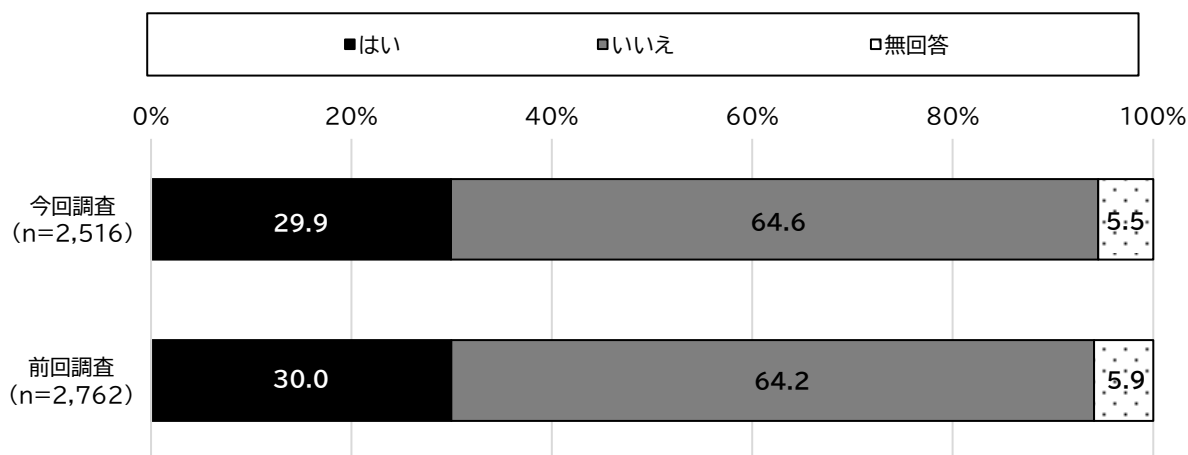
### (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (S A)

本アンケートは要介護1～5の方は対象ではないこともあり、「はい」と回答した方が全体の11.7%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。



### (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (S A)

知っているという回答した方が全体の29.9%となっています。前回調査との比較では、大きな傾向の変化はみられません。

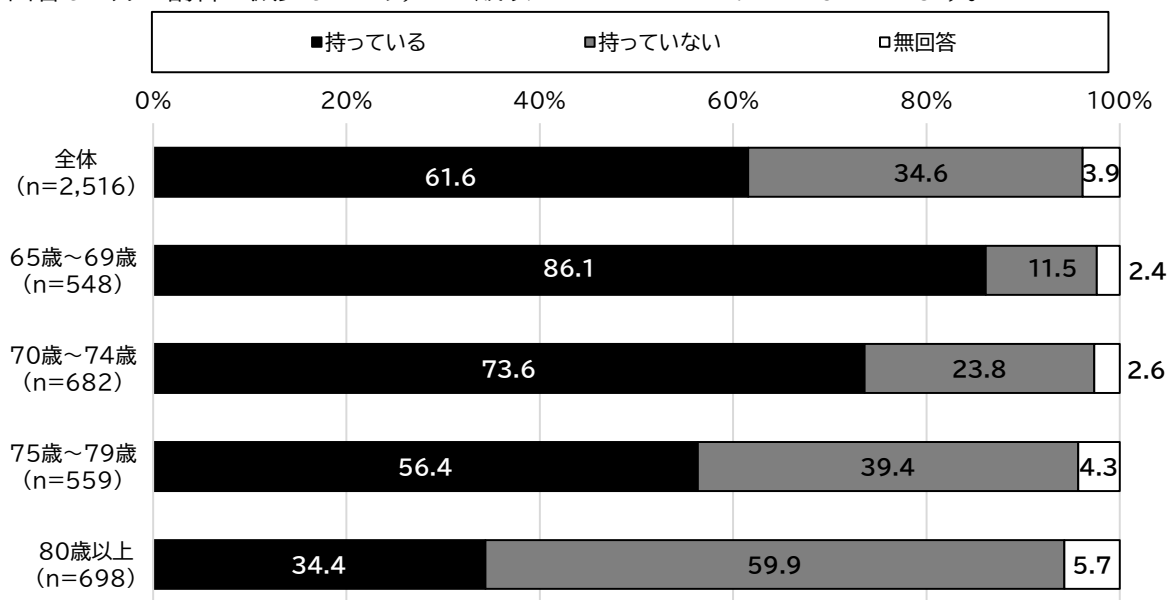




## 問 15 スマートフォンの利用について

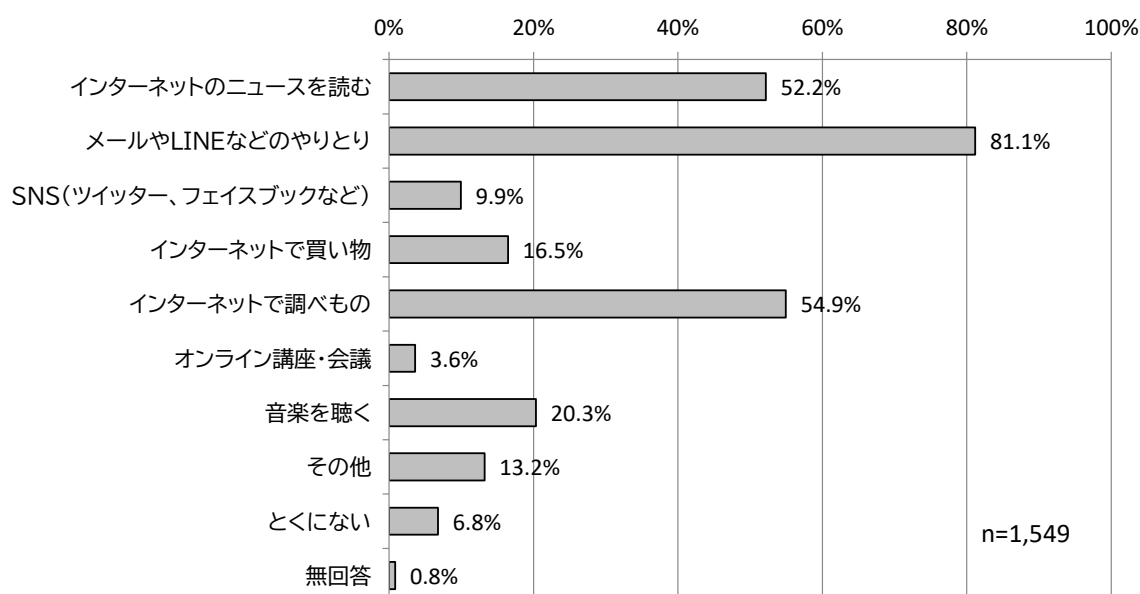
### (1) スマートフォンを持っていますか (SA)

「持っている」と回答した方が全体の 61.6%となっています。年齢別にみると、高齢になるにつれ「持っている」と回答した方の割合が減少しており、80歳以上においては 34.4%となっています。



### (2) 【(1) で「1. 持っている」の方のみ】 スマートフォンを主にどのようなことに利用していますか (MA)

「メールやLINEなどのやりとり」と回答した方の割合が 81.1%と最も高く、次いで「インターネットで調べもの」、「インターネットのニュースを読む」の順となっています。

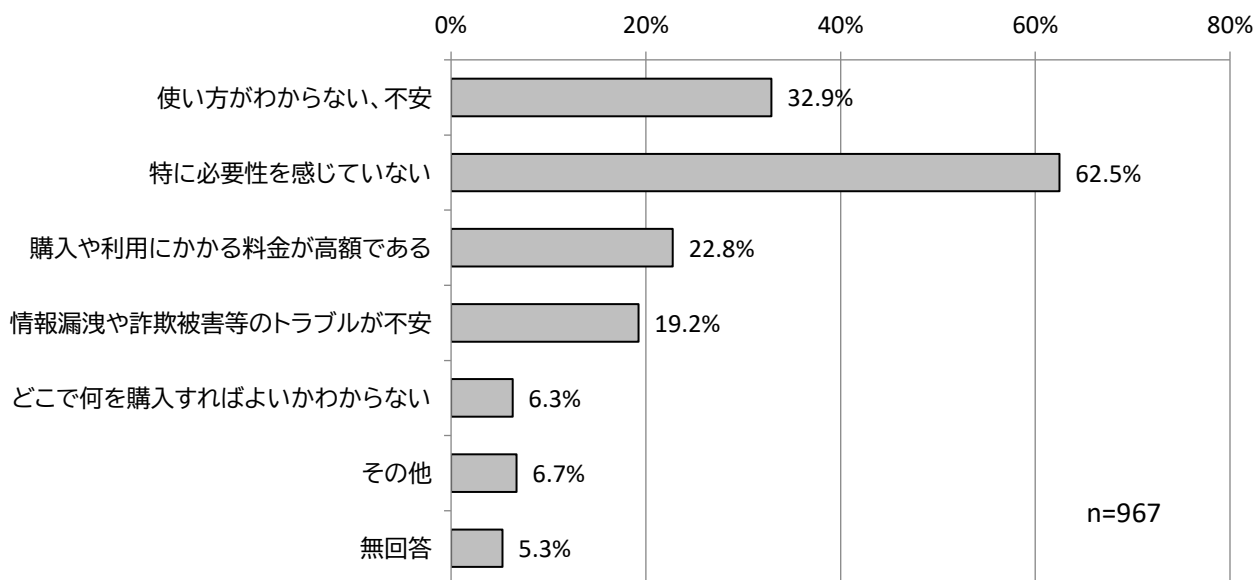


#### 「その他」の代表的なもの

・ ゲームをする      ・ 通話      ・ 動画を見る      ・ 写真を撮る      など

(3) 【(1) で「2. 持っていない」の方のみ】  
 スマートフォンを持っていない理由は何ですか (MA)

「特に必要性を感じていない」と回答した方の割合が62.5%と最も高く、次いで「使い方がわからない、不安」、 「購入や利用にかかる料金が高額である」の順に回答した方の割合が高くなっています。



「その他」の代表的なもの

- ・ガラケーを使用している
- ・耳が聞こえにくい為 など

## 第3編 まとめと考察

### 1 家族や生活状況について

#### (1) 家族構成

3世代世帯は全体の約1割で、高齢者世帯のほとんどがひとり暮らしか高齢者夫婦のみとなっています。少子高齢化・核家族化が進む中、今後さらに1人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加が見込まれます。高齢者の社会的孤立を防ぐために、地域における見守りの充実などの必要性が高まっています。

#### (2) 経済状況

前回調査と比較して、経済状況が苦しいと回答した方の割合が増加しています。物価高騰等の家計への影響があらわれているものと考えられます。年齢・要介護状態・地区等の属性による傾向の違いはみられなかったことから(本報告書に未掲載の集計を含む)、特定の属性の課題ではなく、高齢者全体の課題として経済的支援を検討していく必要があります。

### 2 からだを動かすことについて

#### (1) 外出状況

前回調査と比較して、外出を控えている方が増加しています。控えている理由としては、足腰の痛みや新型コロナウイルス感染症をあげる方が多数でした。

本アンケート実施後に、新型コロナウイルス感染症は5類感染症へ移行し、社会的な行動制限がかかることもなくなりました。今後、高齢者の外出促進のために、地域におけるつどいの場を再開していく必要がありますが、高齢者の感染症への不安がすぐに解消するわけではなく、感染症対策等の配慮を行い、安心して参加できる場づくりに努めるよう、周知啓発していく必要があります。

#### (2) 移動手段

外出する際の移動手段について、高齢になるにつれ自動車運転が減少し、自動車に乗せてもらう、路線バス、タクシーを利用する傾向があります。しかし、80歳以上であっても約3割が自動車運転をしています。

地区による傾向もみられ、中央地区では自動車依存度が他地区より低く、買い物や通院などの生活に必要な移動を徒歩で行えることがうかがえます。その一方で、東旭川・千代田地区では自動車依存度が高くなっています。農地の多い広大な地区であり、路線バスやタクシーが十分に利用できる状況ではないことが要因と考えられます。

加齢に伴う認知機能の低下があるため、免許返納を推進することは必要ですが、地区によってはそれまでの生活の継続が難しくなるため、移動支援や住替え支援などの取組みを検討する必要があります。

### 3 食べることについて

前回調査と比較して栄養低下リスクの変化はみられませんでした。一方で、固いものが食べにくくなる、お茶や汁物等でむせることがあると回答した方の割合が増加しており、口腔機能低下リスクの増加が見られます。口腔ケアは日常的に取り組むことが重要であるため、継続的に啓発をしていく必要があります。

## 4 毎日の生活・地域での活動について

---

前回調査と比較して認知機能低下リスクに大きな変化はありません。引き続き、認知機能を維持していくために、外出や地域における活動への参加を促進する必要があります。

週1回以上地域での活動に参加している割合は約4割となっており、前回調査と大きな変化はありません。参加しやすい地域活動の促進を図り、高齢者の積極的な外出や生きがいづくりを支援していく必要があります。

## 5 たすけあいについて

---

心配事や愚痴を話し合ったり、病気の時に看病してくれたりする人が、まったくいないと回答した方は全体から見るとわずかです。新型コロナウイルス感染症により、別居の家族・親族や地域の人と会う機会が減少はしたものの、社会的に孤立した人が増加したような結果ではありませんでした。高齢化が進行する中、日常的な見守りや助け合いは一層重要になるため、「互助」意識の啓発や、地域における支え合いの体制づくりの推進に努める必要があります。

## 6 健康について

---

前回調査と比較して、主観的な健康状態やうつリスクに大きな変化はみられません。

健康を維持することは、介護予防・重度化防止につながります。引き続き、健康維持のための施策や、介護予防やうつの予防等が必要です。

## 7 地域包括支援センターについて

---

地域包括支援センターの認知度は、全体としては大きな変化はみられません。地区別にみると、中央地区において他地区よりも認知度が低い傾向がみられました。本市の中心的地域で、近年マンションの建設も進んでおり、町内会未加入者も多いことから、地域とのつながりや生活に必要な情報取得手段が十分でない可能性があります。

地域包括支援センターの周知だけでなく、地区によっては社会的孤立状態の人が潜在している可能性を考慮し、地域と連携しながら情報提供を行う必要があります。

## 8 その他

---

### (1)在宅医療

市内には在宅医療を行う医療機関が多数ありますが、在宅医療の認知度は約2割で、年齢による傾向の違いはみられません。また、自宅で最期を迎えることを望む方が約4割でしたが、実際は病院で最期を迎えるだろうと考える方が約4割と最も多くなっています。

在宅ターミナルケアを実施するには、家庭の状況も重要になってくるため、本人の意向や医療機関の状況だけで実現するものではありませんが、在宅医療についての市民の理解を促進することで、高齢者本人の意向をより反映したACPを行うことができ、地域での自分らしい暮らしの実現につながるものと考えます。

## (2) ボランティア活動

ボランティア活動への関心は、前回調査と比較して、「参加したことはなく、興味もない」と回答した方の割合が増加しています。また、ボランティアの利用意向については、前回調査と大きな変化はなく、利用したくないと回答した方の理由として、「ボランティアをお願いすることを負担に感じる」や「公的サービスや民間サービスを利用したい」が多く回答されています。

全体として、ボランティア活動の意義や重要性についての認識が十分ではなく、引き続き市民に向けて啓発を行う必要があります。

## (3) 認知症

将来の不安として、判断能力がなくなった後のことと回答する割合が最も高く、認知症への不安は高いものと考えられます。一方で、認知症に関する相談窓口を認識している方は約3割となっています。認知症予防に関する普及啓発を行うとともに、症状が出た際に円滑に相談ができるように、地域包括支援センターや認知症に関する相談のできる医療機関の周知に努める必要があります。

## (4) スマートフォンの所持

65～69歳では約9割がスマートフォンを所持していますが、高齢になるにつれ所持率は低下し、80歳以上になると約3割となっています。高齢者に関する情報発信手法や緊急時の連絡について、こうした現状を踏まえて検討する必要があります。

# 旭川市介護予防・日常生活圏域二一才調査結果報告書

令和6年3月発行

---

発行・編集 旭川市福祉保険部 長寿社会課

住 所 〒070-8525  
北海道旭川市6条通9丁目 総合庁舎2階  
電 話 0166-25-9797  
F A X 0166-29-6404  
E - M A I L chojushakai@city.asahikawa.hokkaido.jp  
U R L <https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/>